

彼に答へ且つ曰へり、僞善者よ、汝等おのおの安息日には、その牛または驢馬をその小屋より縛き、且つ連れ出して飲ばざるか。不されどアラハムの娘なる此の「婦」は、サカナに縛らるること、見よ、十有八年、安息日の日に此の「婦」より釋かへからざるか。さかくてこそわが事を彼の云ひ給ひしとき、彼に廻らひし者みぞ打たり。されどすべての群衆は彼により置きたる、燈光あるすべての事のために濟べり。

二人また去り給へり、神の國は何に等しきや。また何にこれを比すべきや。一五 芥子種に等しきなり、人これを取りて己自らの國に投げたり。乃ち育ちて大なる樹となれり。されば如何の粒に相れり。さかくて復た曰へり、神の國を何に等しうすべきや。三六 二種に等しきたり。一 一 一粒の粉のうちを採せしは、ことごとく脹らしめたり。

三三 また彼は數つづつ村々村々に詣りて講を排き給ひ、かくてエペサリヤに同て流流給へり。さかくて彼を彼にいへり、主よ、救はるる者は少なきや。然るに彼は彼方に對ひて曰へり、爾等狭き門より入り來らんために國へよ、そはわれ汝等に云はん、多くの者は入り來んことを欲せむならん、されど能はざるべしははなり。四 一家の主人、掃きし門を閉ぢし後、彼等は外に立ちて哀ひつづつ門を叩き始めん、主よ、主よ、我等がために開き給へ。然るに彼は答へて汝等に云はん、われは汝等の何處よりなるを知らず。五 一 そのとき彼等は去ひ給むるなる人、我等は汝の國漸にて喚び且つ飲めり、また汝は我等の大路にて我ごとかり。七

われ汝等に云はん、されば彼は彼は謂ふなり、我は汝等の何處よりなるを知らず。不義を行はざる、みな我より去れ。六 汝等はアラムまたオカオまたサムソ、並にすべての城府を穿つ、國内に生息を以て見給へ、己自らは言用たるるとき、そこに歌へん、また唱へん、主よ、主よ、また人々集まらば、また地と山より來り、且つ神の國に外に居居給へ。八 主よ、主よ、最終の者は絶絶たる者、また最終なる者は最終なる者なり。

一四 安息日に或るパリサイ人の人々來りて、彼に云ひけるは、用で亦りて此路を律法に依りて汝を縛さんと欲すはばなり。然るに彼等は曰へり、汝等能き此の實に依りて、我は今日また明日、惡運を與へ用だし、爾を遂行、三日目に我は死するなり。言されど、日また明日、我は必ず往かざるべからず。そは豫言者はエペサリヤの外に生息することを得ざればなり。九 一 エペサリヤ、豫言者を殺し、また巴爾達に使はされたる人々を行つてエペサリヤ、北地の己自らの體を、その環の下に「履むるが」如く、われ等の兄弟を捕めんと欲せしこと幾度ぞや。然るに汝等は欲せざりき。一五 且よ、汝等の家は現れ給て汝等に遺るなり。されば誠におれ汝等に云はん、主の名に於て來る者は呪せられまよかな、と汝等の云はんとするの罰まで、必ず汝等は我を見ざるべし。

第十四章 また安息日に彼はパンを喰はんとてパリサイの人々その長等のうちの或る者の



し爾王我が許に来るとも、その父、また母、また妻、また妹、その他巴  
 の珠をも得まらずは我が弟子たることを疑はず。ニモまた誰にても巴が十字架を負はずして、  
 我に照る来る者も、我が弟子たることを疑はず。三八之は汝等のうち誰か機を懸てんことを欲し  
 て、己の有するところ、これを懸るに足るや否や、先づ惟してその現を射らざる者なればな  
 り。ニ九然とんば機を射懸て、これを懸ぐることを疑はざるときは、射る者みな、三〇此の人  
 は汝を懸て始めたれど、懸ぐることを疑はざりき、と云ひつ彼を嘲笑ひ始むべし。三一或ひは  
 いづれの王か、住きて他の王と戦を交へんに、先づ坐して、一萬(人)にて己に逆ひて来る  
 二萬(人)に往き處ふことを得るや否やを豫らざらんや。三二されどもし一鹿は己すば、彼の  
 箭は開たれうち、彼所を便はして、平和のための事を講はん。三三是の故にかくも如く、  
 汝等おの己が射る物はずにてに所を待けんは、我が弟子たることを疑はず。三四爾は其  
 ものなり。これを懸も射懸なきもいつとならば、何に入社に味つけらるべきや。三五土垣のたがに  
 も、また懸射したるにも過せず、人々これを投げ出たすなり。爾くなく事をも、其は聞てし。

第十五章

出だすまで、失せたるものの数を往かざるか。五かくて見相たれば、喜びて巴の肩に置き、  
 且つ家に歸りて、友等また隣の人々を云つ呼び集めん、われを同に喜べ、是日我が下、失せ  
 たるものを見出だしたればなり。とわれば汝等に云はん、此の如く相ひ改むる一人の罪人の  
 ために、汝は此の罪ある九十九の業しき者したるなりも影りて、汝、尺にある一人  
 果は其の端(あし)の下ノキヤを十(枚)取もちて、もしその下ノキヤ一つを足はば、燭光を  
 照し、且つ家を輝かし、かくて見相たすまでは、心して喜ぶざる。六かくて見相たれば、汝  
 は友等また隣の人々を云ひつ呼び集めん、我と同に喜べ、是は我が失ひたる下ノキヤを見出  
 だしたればなり。七、われ汝等に云はん、此の如く相ひ改むる一人の罪人のために、神  
 の使者の御前にて済めらん。  
 二また曰へり、或る人二子ありき、三かくてそのうちの若き者、空にいり、又よ、我  
 が死んでき身代分を我に與へよ、乃ち汝はその所帯を彼等に領てり。三然るに多くの日  
 を経ざるうちに、若き子は守ての物を集めて、遠き國に往き去れり。かくてそこに汝の邊に  
 来しつその身代分を汝に賣せり。四然るに彼の守ててを賣ししとき、その地方いたる處に  
 烈しき飢饉ありて、彼は乏しくたり始めたり。五されば往きて、彼はその地の二人の市民  
 に身を寄せたり。乃ち彼は腹を割ふために、これを野に置はせり。六かくて彼は腹の食しつ  
 つありし相互にて、日本腹を割たさんと誤みたり。されど誰も與ふる者なかりき。七かくて

彼は已自らに歸りていへり、我が父の如何に多くの雇人等は、豈にバツあるぞや、然るに我は  
 価値にて亡びんとす。又起つて我が父の許に往き、且つ謂はん、父よ、我は天に對し、また  
 汝の面前に罪を犯したり。一五 さればもはや汝の子と呼ばるる値なし。我を汝の雇人の一入  
 の如くに爲せ、二乃ち起つてその父の許に到れり。然るに彼の何ほ遠く附かれるに、その  
 父彼を見たり、且つ不便に思へり。乃ち走り往きて、その頸の上に伏し、慇懃も彼に接吻せ  
 り。三 然るに子、彼にいへり、父よ、我は天に對し、また汝の面前に罪を犯したり、されば  
 もはや汝の子と呼ばるる値なし。三 然るに父はその懇情に對ひていへり、汝等の哀愛を持  
 ち來りて彼に着せよ。また手には臂を、また足には鞋を與へよ。またかの債、肥えたるを  
 來き來りて與れ。かくて食して我等を樂ましめよ。四 是は此の我が子は死人なりしが死さか  
 へり、また死せたる者なりしが是れ用だされればなり。かくて權等は驚み附きたり。五 然る  
 に彼の子、年長けたる者、前にありき、かくて來りて家に近きしとき、鳴り物と謂ふを聞け  
 り。六 乃ち彼はその僕の一入を呼び寄せ、此等の事は何なるべきやと尋ねたり。七 かく  
 て彼にいへり、汝の兄弟は來りたり、されば彼の父は、かの債、肥えたるを與へり、されば  
 く彼を得たればなりと。八 然るに彼は怒り、且つ入り來ることを欲せざりき、其の故にその  
 父田で來りて勸めたり。九 然るに彼答へて父にいへり、且よ、われ多年、汝に請ひて曾て汝  
 の會に寄きしことをなし。また汝は我が友等と共に樂むために、省て一つの作田下さ、我に與へ

第十六章

しことなし。一〇 然るに遊宴とも共に、汝の所帯を嘆ひ盡したる、此の汝の子來りたるとき  
 は、汝は彼のために、かの債、肥えたるを廢れり。三 乃ち彼にいへり、兒よ、汝は恒に我と共に  
 に在り、且つ我がものなる子ての物は汝のものなり。四 されば又た其の者なりしが是れ用だされればなり。  
 かくて弟子等に對ひてもよひ給へり、或る富める人ありき。彼は二人の家  
 客を有てり、然るに此の客、その所有物を賣しし時、彼に訴へられたり。五  
 乃ち彼はこれを時でいへり、汝に就きて我が聞く此の事は何ぞや。汝の務む行を止し出たは、  
 そももはや汝は家宰たることも能はずればなり。六 然るに家宰、已自らあつちにいへり、われ何  
 を爲すべきや。そは我が主、我より此の務を取り去りたればなり。われ主側ることは能くすべ  
 くもあつた、物乞ひするは耻かし。七 我れ此の務より離さざんとす、人々その家に我を受くる  
 ために、如何に爲すべきやを知れり。八 かくて巴が主の、債主の一人人を呼ぶて、最初の一  
 (勢) に云へり、汝は我が主に負ふところ何程なるや。九 乃ち彼いへり、エライオツ百幣。かく  
 て彼にいへり、汝の證據を取れ、且つ坐して速に五十と奪けよ。七次に他の者にいへり、  
 されば汝は何程負ふや。乃ち彼いへり、小幣百石。かくて彼に云ふ、汝の證據を取れ、且つ八  
 十と奪けよ。八 然るに主は彼の愉く爲ししが故に、その不義なる家宰を譽めたり。そは此の世  
 の子等は己が代に於ては、光の子等よりも同じ愉快ければなり。九 さればわれ汝等に云はん、不

義のマモンにて己自らのために友をつくれ。その敵えんとき、彼等は汝を水の住居に受けんた  
 めなり。一〇 些事に於て信ある者は、大事に於ても信あり。また些事に於て不義なる者は、大  
 事に於ても不義なり。一 是の故に汝等もし不義のマモンに於て信ある者にならずんば、誰か  
 救なるものを汝等に任すべきや。三 また汝等もし他のものに於て信ある者にならずんば、汝  
 等のものを誰か汝等に與ふべけんや。二三 家僕は誰も二主に奴れたる者と能はず、そは…を惜  
 み、また他を愛し、或ひは一を頂んじ、また他を輕んずべければなり。汝等、神とマモンとに  
 奴僕たることを能はず。

一 然るに整理きスリサイの人々、此等のすべての事を聞き、彼を嘲笑へり。一五 乃ち彼等  
 に曰ひ、汝等は人の面前にて己自らの義とする者なり、されど神は汝等の心を加り給ふ。そ  
 は人のうちに於て偽りするは、神の面前にて惡かたればなり。一六 彼と與言者等はヨハネまで  
 にて、そのときより喇撒非喇の國は征伐せらる。されば人かた入らんとて烈しくこれを攻む。  
 一七 されど人々地の端を去るは、彼の一輩の落つより悔はもし。一八 すべて人々…その義を  
 棄り、且つ他の善を棄る者は、惡を棄る者なり。またすべて災より去られたる者を聚  
 るも、惡を棄る者なり。一九 また處る活める人ありき。また彼は紫と細布とを着て、日に信  
 ひ布やかに纏めり。二〇 また真しき者ありき、その名はマが。彼は全身に晒れりしか、彼  
 の門の邊に置かれて、二 かの富める人の倉庫より落つる、パン屑にて賑かされんことを望め

二 されど又さへ來りてその服物を離れり。二三 かくてかくありき、貧しき者は死ねり、乃ち  
 彼は死後により、アラハムの墳にまで運れ往かれたり。またかいつ言める者も死にて、葬られ  
 たり。二四 かくて彼は除府にて賣買のうちにありて、その目を縛ければ、遂にアラハムと  
 その僕にマガロとを割る。二五 乃ち彼は訓用していへり、又アラハムと、我々水、火の  
マガロを遺はして、その指心差を水に浸して我が背を背きしめよ。そは我は奴の二に四つ  
 つおればなり。二六 然るにアラハムいへり、惡人、汝は棄ける間、汝の善を物を棄てて  
 せしがマガロは等しく惡しき物を受けたることを憶ひ用でよ。されば今ことに汝は奴ら  
 れ、また汝は問ゆるなり。二七 且つ此等のすべての事の上、我等と汝等との間に死が置かれ  
 たる大なる隔れれば、此處より汝等の許に運らんと欲する者も得べからず、またそこより我等の  
許に運えんと欲する者も能はざるなり。二八 かくて彼いへり、されば高か父、我が父の  
 家に彼を遣はさんことを。二九 是はわれ五〔人〕の兄弟もれば、彼等も寄責の處に來らま  
 るために、彼等に應じて答ふためなればなり。三五 アラハム彼に云ふ、彼等はマガロと陳言  
 者等とあり。彼等より聞くべし。三〇 然るに彼いへり、吾、父アラハムと。されども死人  
 のうちより誰か彼等の許に往きたらんには、彼等は悔ひ改むるならん。三一 乃ち彼にいへり、  
 彼等もしマガロと陳言者等とに聞かずば、たとひ死人のうちより起くる者ありとも、彼等は説  
 き伏せられざるべし。

また彼は弟子等に對ひて曰へり、爾は來らざるを得ず、されどこれを來りし

第十七章

る彼は喇なるかな。此等の小きき者の一人を頭かしむるよりは、驢馬に動かす驢馬をその頭に懸けられ、且つ海に投げ入れらるは、彼のために益なり。己自らに心せよ。またもし汝の兄弟、汝に逆ひて罪を犯さば、彼を戒めよ。されどもし悔ひ改めなば赦せ。また彼も一日に七たび、汝に逆ひて罪を犯し、七たび汝に歸り、われ悔ひ改むと示はば、汝は彼に赦すべし。

また使徒等、主に對ひていへり、汝等に信仰を加へ給へ。然るに海に歸り、汝等もし芥子種ほどの信仰あるは、此の養の木の根敷になりて海のかなかに植はれ、と云ふことを得人、乃ち汝等に類ふべし。されば汝等のうち誰か、或ひは耕し、或ひは牧羊する奴僕あらんに、品より入り來れるとき、彼はこれに、真に生つて居るに歸り、と謂ふならんか。さればかれは、たにぞ我が馳驟すべきものを備へ、且つ帶して、我が喚び且つ飲もうと我に事へよ。かくてその奴、汝は喚び且つ飲むべし、とこれに謂はざらんや。又彼はこれに指圖せし事を爲ししが故に、その奴僕に謝すべきや。我はその如く世はざるなり。かくの如く汝等も、汝等に指圖せしめておきての事を爲ししとき、汝等は無益の奴僕なり、我等は汝等は爲すべし我等の爲する事を爲したればなりと。

また彼のエルサレムに往き給ふときにかくありき、即ち彼はサマリヤとガリラヤの真中

を經て過ぎ往き給へり。かくて彼の過る村に入り來り給ひしとき、十人の痲病者、彼に逢へり、彼等は遂に立ちたり。また汝等は聲を擧げて、云ひけるは、イエスマ、主よ、我等を癒み給へ。乃ち汝等を見て、これに歸り、往きて己自らを祭所に見はせ、かくて汝等の持けるときにかくありき、彼等は癒まされり。また彼は彼等のうちの一二人、その癒まされたる名を見て、大聲に神を頌つて稱り來れり。かくて彼の足の傍にその頭を伏せ、彼に感謝せり、また彼はサマリヤ人たりき。乃ちイエス答へて曰へり、十人癒められたるにあらずや、然るに九人は何處にあるぞ。八神に祭先を擧げまつらんとして歸りし者は、此の他國人の外に見出だされざるか。かくて彼に曰へり、想はれ給へ、汝の信仰を救へり。

このまた彼はサライの人々より、神の國は何時來るか、と問はれ給ひしとき、彼等に答へ、且つ曰へり、神の國は人の目に見ゆる物も來るにあらず。また見え、此處に、或ひは見え、某處に、と謂ふべきにもありず、そは見え、神の國は汝等のうちにおればなり。また弟子等に對ひて曰へり、汝等は人の子の日の一日を見んことを觀む日來らん、されど目のあたり見ざるべし。かくて彼等は且ち此處に、或ひは見え、其處に、と汝等に謂ふならん。往く勿れ、また迫り來むる勿れ。神は電の、天の「此方」とり天の「彼方」に閃き照らす如く、人の子も彼の日に、その如くあるべければなり。またされど先づ、汝は必ず多くの苦を受け、且つ此の代より棄てられざるべからず。またアノの日にありし如く、人の子の日に

もその如くあるべし。モ入の、方船に入りし日まで、彼等は食しつありき、彼等は飲みつありき、彼等は居りつありき、彼等は焼きつありき。餘るに洪水来りてすてをば、買ひつありき、彼等は居りつありき、彼等は積至つありき、彼等は建てつありき。元然るに口トの、アトより出て来りし日に、天より火と硫黄と雨りてすてをばせり。人の子の闘はる日には、かくの如くあるべし。三その日に屍の上にあらん者は、家の内なる器を取り去らんとて、下り来る御れ。また早く、鳥にある者は彼ろにある物のために歸りて、口トの妻を遣ひ出でよ。四誰にてもその魂を救はんことを求むる者は、これを與ふべし、また誰にてもこれを失ふ者は、これを請かすべし。五われ汝等に云はん、その處三つ所にあり、一男は取られ、また他の男は差しかるべし、二また二女は取られ、また他の二女は差しかるべし。六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。二十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。三十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。四十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。五十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。六十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。七十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。八十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十一また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十二また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十三また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十四また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十五また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十六また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十七また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十八また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。九十九また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。百また一男は取られ、また他の男は差しかるべし。

第十八章

また彼は人の心手恒に謝らざるべからざることを、更望すまじきことをたぬに彼等に一つの嘘を云ひ給へり、三云ひ給ひけるは、或る所に神を畏れず、また人を敬はざる者もあざき。三またその所に懼あざき。かくて彼は彼の許に來りて云

ひけるは、我に我が仇を報いしめよ。元然るに彼は久しく欲せざりき。されどその後彼は巴目もろちわにいり、假令われ神を畏れず、また人を敬はずとも、五何ほ此の故、我を誹はしむるが故に、われ彼に仇を報いしめよ、然らばれば終まで來りて我を困めよ。六かくて自ら入り、不義なる處き人の云ふことを聞け。七されば神は日また彼に對ひて叫び、且、怒すとのの、神は其の仇を報い給はざらんや。八われ汝等に云はん、彼は速に彼等の仇を報ひ給はざらむ。また彼は己の心の判らざるを、果してその信仰を地の上に具出たすなり。六六

九また彼は己の心を寛しき者なりと頼み、且つ他を憐れむと成る人々に、此の証をばし。一二人は彼らに三朝前に上りて、一はバリアリヤ人にて、彼は羅便人なりき。二バリアリヤ人は立ちて、己自らに對し、かく祈れ、われ汝に感謝す、そは我は餘の人々の如く、食る者、不義なる者、汚濁する者にあらず、或ひは此の羅便人の如くにも、あざきばばなり。三われ速に二たび腹食し、すてに我が得る物の十分の一を献ぐ。四然るに羅便人は腹に立ちて、目を天に上げて、ことをも欲せず。されど己の胸を升きて云ひけるは、神よ、罪人なる我に罰をたまへ。五われ汝等に云はん、此の者はかの者より義とせられて、その家に下り往けり。そはすて己自らを誇る者は卑うせられ、また己自らを卑うする者は高うせらるべければなり。六また彼のこれに罰り給はんために、人々羅便等をも撥ひ來りしが、弟子等見て彼等を叱したり。七然るにオエ、彼等を呼びて曰へり、弟、羅便の我が許に來るを許せ、且つ彼等を結す

る勿れ。それは神の國は此の如き者等のものなればなり。一七 殿にわれ汝等に云はん、誰にても  
物乞の如くは、神の國を受けざる者は、必ずこれに入り来るまじし。

一八 また是等哀、彼に問ふて云ひけるは、華爾よ、われ何を爲さば、永の生を嗣ぐべきや。

一八 然るにイエス彼に曰へり、何ぞ汝は我を善といふや、善は一、即ち神の外にあるなし。三〇

汝は誠を知る、救済すべからず、救済すべからず、汝の罪を立つべからず。汝の父

と母とを敬べ。三 乃ち汝いへり、汝は勿少よりすべし此等の事を離れり。三 然るに此等の事

を聞きて、イエス彼に曰へり、汝は一つ汝に欠くるなり。すべし汝が持つ程のもの一を賣れ、

且つ貧しき者に與へ、されば汝は天に於て寶をもたん。かくて來り我に従へ。三 然るに

彼は此等の事を聞きて、いと哀しくなれり。そは彼は一方ならず貧める者なりしが故なり。三〇

かくてイエス彼の哀しくなりたるを見りて曰へり、貧賤を有つ者の、神の國に入り来るは如何に

難きや。三〇 是は富める者の神の國に入り来るより、駱駝の針の穴を通るは同じ見ればは

り。三 乃ち彼等聞きていへり、されば誰か救はることを得ん。三 然るに彼曰へり、人に

對して能はざる事も、神に對しては能ふべきなり。二八 かくてテラコイへり、且よ、我等一切を

賣しおきて汝に從へり。三 乃ち彼は彼等に曰へり、誠におれ汝等に云はん、神の國のため

に賣し、また汝りつある世に於て汝の生を受けざる者なし。

三 又彼は十二を近づけて、これに對ひて曰へり、且よ、我等はエロソムスに在り、かく  
て人の手に就きて、鹽漬者等によりて鹽されたるすべての事は遠けむべし。三 されば彼は國  
人に傳ひて、かくて傳へられ、また解しめられ、また解せらるべく、三 又彼は彼等は鹽して後  
これを授けずければなり。かくて三日めに彼は起つて、三 然るに彼等は此等の事を少しも  
捕りざりき。また此等の詞は彼等に隠れたれば、彼等は是は知らざりき。

三 又彼のエリコに近づき給ひしとき、かくありき、或は買物、物乞しつ諸の徒に會ひ  
り、かくて彼は群衆の過ぎ往くを聞きて、此は何なるやを尋ねたり。三 されば人々彼に告げ  
けるは、サレ人なるイエスの過ぐるなりと、三 乃ち彼等は出でて去りけるは、イエスよ、  
エズビテの子よ、我を盗み給へ。三 されば先立ち往く人々、彼の駝するやうにこれ來りたり。  
然るに彼は解きエズビテの子よ、我を盗み給へ、と叫び出でたり。四〇 乃ちイエス立ち止まり、  
命じて彼を連れ來らしめ給へり。かくて彼の近づきしとき、これに問ふて、三 六は給ひける  
は、何を汝に我が感さんことを汝は欲するや。乃ち彼いへり、主よ、我は視力を授けんことを。  
三 かくてイエス彼に曰へり、視力を授けよ、汝の俯仰汝を敬へり。三 乃ち彼は忽ち視力を  
授けたり。かくて神を頌めつて彼に從へり。さればすべての民これを見て神に讚美を稱へたり。

かくて彼はエリコに入り來りて過ぎ往き給へり。三 然るに見よ、名がサア  
カと呼ぶ人ありき。また彼は團體人妻にて富める者なりき。三 又彼はイエ

第十九章

又を如何なる人なるか、且んことを案ねつありき。然るに其支組かりし故に、群衆のために「見ること」能はざりき。乃ち起りて前に付き、彼を見んために桑の木に登れり。そは彼はその「道」を「通き」挂かんとし給ひたればなり。五かくてそこに到り給ひしとき、オエ親止けて彼を見、且つこれに對ひて曰へり、争アカイよ、登き下れ。そは今日汝の家にお手我を迎めざるを得ざればなり。六乃ち急ぎ下り、且つ汝がて彼を登けたり。七さればすてつ者見しとき、登きて云ひけるは、彼は深き人の許に宿るべく入り来れりと。八然るに争アカイ立あて、主に對ひていへり、見よ、我が有る物の作を、非よ、われ貸しき者に與へ、且つもし人より笑ひ眺めて取りしものあれば「それ」も「四倍」返さん。九乃ちオエ彼に對ひて曰へり、今日汝は此の家に来れり、これ僕もアラムの子たるが故なり。一〇そは人の手は汝がたを者を見定め、且つ故は人ために割られたればなり。

二 然るに人々此等の事を聞きしとき、彼はエロサルムに近づき給ひ、また神の國に於て別はれたらずと彼等の思ひしが故に、彼を加へて曰へり、三是の故に曰へり、出なば其成る人、且口ものために國を捨て歸らんとして、遠國に往けり。四また彼は己が主人の奴官を明て、彼等に十ムナを與へ、且つこれに對ひていへり、我が来るまで前候せよ。五然るに市民等は彼を憎みたれば、六よ上り使節を使はして云ひけるは、我等は此の人の、我等の上に至らざることを欲せず。七かくて彼の國を捨て歸り來りしときにかくありき、即ち彼は銀子を與へ、此等の奴

僕を呼べと云へり。是れ前候して益せしところを知らんためなり。八かくて衆の者歸りて云ひけるは、非よ、汝のムナは十ムナを働き出だせり。九乃ち彼いへり、宜しきかた、差さ給へよ、汝は汝がさき甲に宿たりし故に、十の形の上に標を執れ。十一また次の者判りて云ひけるは、非よ、汝のムナは五ムナを得たり。十二乃ち此の者にもいへり、されば汝は他の形の上に於て、十三また他の者判りて云ひけるは、非よ汝のムナを見よ、我これを手中に抱て保てり。十四そはわが汝を標せられたればなり。そは故は標しき人にて、標かざるものを取り、また標かざるものを標せばなり。十五然るに彼いへり、わが汝の口にて汝を標かん、應しき故なり。汝、われは標しき人にて、標かざるものを取り、また標かざるものを標することを知らば、十六また我が我が來るとき、獅子と同一に我を捕來するたため、何故に我が銀子を兩所に俵せざりしや。十七かくて衆に立てる者にいへり、ムナを獲とり來れ。また十ムナもてる者に、そはを與へよ、十八乃ち人々彼にいへり、非よ、彼は十ムナあり。十九そはわが汝等に云は人、十二て有つ者は與へられん、されど有らぬ者よりは、その有つものをも取らるべければなり。二十それのみならず、われは彼等の上に生たるを飲せざる、それらの我が腹を疵處に連れ來れ、且つ我が前にて罰せ。二十一また此等の事を曰ひて〔彼〕彼はエロルムに上らんとて、先立りて往き給へり。

三 かくて彼はエロルムと呼ぶ山の嶺なる、エチバクとエタニヤとに近づき給ひしときか

併へたり。乃ち又彼等曰へり、何の權にて此等の事を我は爲すか、我も汝等に云は

かかくて彼は民に此の事を云ひ始め給へり、或る人猶胡を任立てたり。かくてそれを廢去  
に任して久しく遠國に往けり。かくて期に當りて彼は猶胡の貨のうちより彼等の彼に  
與ふるために、農夫等の許に一人の奴僕を使はせり。然るに農夫等はこれを打ちて死しく  
て死しく死り歸せり。二 また彼は取れて三たび道はししに、彼等はこれをも奪つて猶胡  
に歸せり。三 また彼は猶胡の王に、われ何を爲すや、我が子、奪せらるる者を遣はさ  
だしたり。四 また彼は猶胡の王に、われ何を爲すや、我が子、奪せらるる者を遣はさ  
ん。或ひはこれを見て彼等は報ふたらん。然るに農夫等は彼を見て、己自らに對り期  
て、或ひけるは、此の者は神なり。いざ來れ、謝罪は我等のものにならんためにこれを殺  
ん。五 乃ち彼等はこれを猶胡の王に呈出たして殺せり。是の故に猶胡の王は彼等に  
何を爲すや、二 又彼は判り、且つ此の農夫等を亡ぼすべし。かくて猶胡を他の者に與ふ  
るならん。然るに彼等聞きていひける、有るまじきことなり。六 乃ち彼は彼等をつら  
て曰へり、されば家を建つる人々の業たる行、此の者は國の官有となれり、と殺されたる此  
のことは何なるや。八 かくてかの石の上に落つる者は碎かれ、またその行の罪の上に落つるも、  
それを廢去に碎くべし。七 かくてその時に祭司長等及び都者等、彼の手に手をかけんことを

拊められたり、民を懼れたり。そは彼等は此の聲を彼等に對ひて曰ひしことを知りたればなり。  
三〇 また彼等は這ひつづ彼の會を捉へ、これを長にまた太守の權に付さんために、は百も  
難しき者なりと僞れる固者等を使はせり。二 乃ち彼等附きて云ひけるは、爾と我等は眞直  
にいひ、且つ歌へ、また樂を奏し、或る理をもて神の道を教へ給ふことを知る。三 百もカヤ  
ザルに納むるは我等のために計しきや、滅ひは然らざるか。四 然るに彼等の功を認め給へ、  
これに對ひて曰へり、何ぞ我を試むや。百もチナリを我に見はせ、誰の形を給ふや。乃  
ち答へていへり、カヤガル。五 かくて彼は彼等に曰へり、是の故にカヤガルの物はカヤガ  
ルに、また神の物は神に納めよ。六 されば彼等は民の前にてその詞を捉ふることを能りき、  
またその會を興しきつづ設せり。  
三十一 また聲あることなしと云ひ消す、皆下カヤの人々のうち或る者、進み來りて問ふ  
て、六 六 答ひけるは、爾と、もし誰そその兄弟ありて死なば、その兄弟、かの聲を  
殺り、且つ兄弟のために穢を起すべきことを、モラゼは我等のために殺したり。九 是の故に  
七 八 兄弟ありき、かくて一番めは妻を取り聖無しにて死にたり。三〇 されば二番めはか  
の婦を取りたれど、此の者も聖無しにて死にたり。三一 かくて三番めはこれを取れり。されど  
七人等しく兄を拊かすして死ねり。三二 かくてすての者の後に婦も死ねり。三三 是の故に應  
に於て、彼は彼等のうちの誰の妻にならば。そは七人彼を妻としたればなり。三三 乃ち答へて

イエズスに曰へり、此の世の子等は榮り、また嫁けども、三かかの世に到り、且つ死人のうちよりの處に値すとせらるる者は榮らず、また嫁きもせず。三それは彼等はもはや死ぬることと曉はさればなり。それは神の子にて天使と均しき者、且つ神の子なればなり。三また死人の掘むることとは、モリヤも祭に就きてのことのうちにて、主をアブラハムの神、またイサカの子、またヤコブの神と云ふとき、これを明かにせり。三されば彼は死人の神におはせず、されど生ける者の神におはします。それはすべては彼のために生くればなり。三乃ち學者等のうちよりの者等へていへり、爾大、良くいへり。三かくて彼等はもはや何事をも故て彼に問ふこととせざるべき。

三 また彼等に對ひて曰へり、彼等は如何にしてキリストを殺すの子なりと云ふや、四三即ちキリスト自ら歸の處に云ふ、主は我が主に行へり、四汝の飯を汝の足に擧ぐるまで、我が手に申せよ、五是の故に父と稱を主と呼べば、如何にして彼はその子ならんや、六かくて彼は民みな聞きつつ多りしとき、弟子等に曰へり、八衣裳を着て歩むことを好み、且つ市場にての擧げ、また會堂のうちの上座、また饗宴に於ける上座を好む學者等に命ぜり、七彼等は彼の家を喰ひ盡し、かくて証に畏く斬る。此等の者は併は懸れる嵐を喰くるなり。八

第二十二章

三 また彼等食しき餐の、シムオンをそれに投げ入るを見給へり。

三かくて曰へり、眞にわれ汝等に云はん、かの靈、此の貧しき者は、すべての者より多く投げ入れたれど、四それはすべて此等の者は、已に餘れるものうちより納め物に投げ入れたれど、

五また彼等の人々、且き石と奉納物とにて、神殿の飾られたることに就きて云ひつゝありしとき、彼は曰へり、六汝等の看るところの此等の物につきては、所せざる石の上にて二つの石も遣さざる目よ來てし。七かくて彼等問ふて云ひけるは、爾大、いつ此等の事あるべきや。八また此等の事の所にあらずるとき、如何なる貧の發るや、九乃ち彼行へり、視よ、汝等はさざる勿れ、それは多くの者、我なり、十と云ひ、また、期は近ければ、十一我が名に於て來るべければなり。是の故に汝等に眼を非く勿れ。十二また汝等も觀よ、いつて則かんとよ、擧ぐる勿れ、それは必ず此等の事は先づ擧らざるべからざればなり。されど眞に終はあらん。十三またとるどころに大なる地震、また饑饉、また疫病あらん、また怖るべきことと災よりの大なる靈とあらん。十三されとすべて此等の事に先立ち、人々その手を汝等にかけて脅かすは俄かに付し、また我が名のために、至極及び大守等の前に進み往きて汝等を迫害せん。四されどこれは靈のため汝等にかへるべし。五是の故に汝等辨明すべきことを汝等必應るまじ、と汝等の心に定めよ。六それはすべて汝等に送らふ者の汝等に送らふことも、またいひ別

すことも能はざるべき口と智慧とを、われ汝等に與ふべければなり。一六 されど汝等は双親、また兄弟、また親戚、また朋友などによりてきつ付きさるべく、且つ彼等は汝等のうちの或る者をば死罪に處するならん。一七 また汝等は我が名のゆへに、すべての人に憎まるならん。一八 されど汝等の頭の髮の一所も必ずてはさるべし。一九 汝等の胸へ忍をもて汝等の魂を得よ。二〇 されど汝等、軍勢をもてエルサレムの圍まるを見るとき、そのときはその荒れ廢の近づくことを知れ。二一 そのときエリヤに在る者は山に遁れよ。またその眞中に在る者は立ち退くべし。また村々に在る者はそのうちに入り来る勿れ。二三 是れ此等は報はるの日にて、錄されたるすべての事の成就せらるるためなればなり。二四 されどその日に孕める者と、乳を哺まする者とは嗣なるかな。是れ地には大なる難あり、此の民には怒るべければなり。二五 乃ち彼等は劍の口によりて倒れ、また諸の國人に曳かれて墜にせらるべし。かくてエルサレムは國人の期の滿つるまで、これに際み墜らるべし。二六 また隣と月と星とに徴あるべく、また地にては諸の國人難かうるたへ、悔地り、且つ瀆蕩き、三人々懼と世界に來りつあることの特構とによりて魂消えん。是れ諸の天の力、變はるべければなり。二七 またそのとき彼等は人の子の、大なる力と榮光とをもて、雲のうちに來るを目のあたり見るならん。二八 されど此等の事の發り始めなば、仰ぎ見よ、且つ汝等の頭を上げよ。是れ汝等の隣、近づけばなり。

二九 また一つの喩を彼等に曰へり、無花果樹とすての樹とを見よ。三〇 既にその葉を發るときは、汝等これを視て既に夏の近にあることを知る。三一 かくの如く、汝等も此等の事の發るまで、此の代は必ず過ぎ去らしと、三二 天と地とは過ぎ去るならん、されど我が言は必ず過ぎ去らじ。三三 されど汝等自らに心せよ、然らざれば汝等の心は食を食ること、酒に耽ること、所帯の心違とに疲れたん。かくて思ひかけなく、かの日は汝等の上に押し廻るべし。三四 是れ露の如くに、過ぐ地の額に坐するすべての者の上に到るべければなり。三五 是の故に汝等すべての期に、祈願しつて目を覺ましをれ。是れ汝等の寐に發らんとする此等のすべての事を通れ、且つ人の子の前に立つに備すとせらるるためなり。三六 かくて彼は神殿にて教へつて目を過ぐし給へり。されど出で來りてエライヤンと呼ぶ山にて、夜をば野外に過ぐし給ひき。三七 また民はみな神殿にて彼に聞かんとて、朝まだきにその群に來れり。

第三十二章

また講除、即ち遠慮と云はる祈會は近づけり。二 かくて祭司長等と學者等とは、如何にして彼を殺すべきかを案めつてありき。是れ民を離れたればなり。三 然るにサタナはエグアイスカリオテと呼はる者に入りたり。彼は十二の教のうちなり。四 かくて彼は去つて祭司長等及び司等と同一に、如何にしてか彼を殺さんと語たり合へ

り。五 されば彼等は喜び、且つ銀子を與ふことを約したり。六 乃ち彼は語ひたれば、群衆の  
あざむく時に付さんと、好き權を棄めたり。

七 また遺徳の辱れざるを得ざる群衆の日々に到れり。八 されば彼はペトロとヨハネとを便は  
し、曰ひけるは、往きて、我等の喰ふべきために、遺徳を備へよ。九 然るに彼等彼にいへり、  
何處に我等の備ふるを欲し給ふや。一〇 乃ち彼は彼等に曰へり、見よ、汝等市に入らば水瓶  
を携へる人の、汝等に出で會ふべし。彼に従ひてその人の入り往く家に入れ。一 かくてその  
家の主人に謂へ、師は汝に云ひ給ふ我が弟子等と共に遺徳を喰ふべき處の假宿は何處なるや。  
二三 されば彼は懸へる大なる二階座敷を汝等に見はすならん。そこに備へよ。二三 乃ち去つ  
て、彼等に謂ひ給ひし如く見出だしたれば、彼等は遺徳を備へたり。

二四 かくて時となりしとき、彼は席に着き給へり、また十二使徒も彼に伸へり。二五 かくて  
彼等に對ひ曰へり、我が昔を受くる以前に、汝等と共に此の遺徳を喰ふことを取みに望みたり、  
一六 是はわれ汝等に云はん、神の國に於てその成就せらるるまで、もはやわれ必ずこれを喰はざ  
るべければなりと。二六 かくて杯を受け感謝して曰へり、これを取れ、且つ己自らのために備  
へよ。一七 是はわれ汝等に云はん、神の國の來るまで、われ必ず神の國の寶より、のをもとめ飲まざ  
るべければなりと。一八 かくてパンを取り、感謝して擘き、且つ彼等に與へて云ひ給ひけるは、  
此は汝等のために與へらる我が體なり。我のを憶ひ出づるためにこれを爲せ。三〇 夕食し

給ひて後、杯をも等しく爲して、云ひ給ひけるは、此の杯は汝等のために流す、我が血にての  
新契約なり。三一 されど見よ、われを待す者の手は我と共に食卓の上にあり。三二 されば如何  
にも人の子は定められたる所に備ひて往く。されど彼を待すかの人は備なるかな。三三 しか  
くて彼等は、されば此の事を言はんとする者は彼等のうちの誰なるや、と己自らに對ひて棄め  
始めたり。三四 また彼等のうちに爭ありき。是れ彼等のうち誰か大なる者たるやと思ひたれば  
なり。三五 乃ち彼は彼等に曰へり、諸の國人の王等は彼等を主どり、また彼等の上に權を執り行  
ふ者は愚を施す者と呼はる。三六 然るに汝等はかくあるべからず。されど汝等のうち大なる  
者は若き者の如く、また頭たる者は事ふる者の如くなるべし。三七 是は大なる者は孰れなるや、  
席に着ける者なるか、或ひは事ふる者なるや。常に着ける者ならずや。然るに我は汝等のう  
ちに在りて事ふる者の如ければなり。三八 されど我が試のうちに絶えず我と共に居りし者は汝  
等なり。三九 されば我が父の、國を我に任じ給ひし如く、我も汝等に任ぜん。四〇 是れ我が國  
に於て汝等の、我が食卓にて喰ひ、且つ飲み、また位に坐して、オスマエルの十二の族を裁く  
ためなり。四一 また主曰へり、シモンよ、シモンよ、見よ、サタンは麥の如く蝕はんために、  
汝等を棄めたり。四二 されどわれ汝の信仰の潰えざるやう、汝に就きて祈願せり。されば汝の  
立ち降りたるときに、汝の兄弟等を堅うせよ。四三 然るに彼は彼にいへり、主よ我は礎石にま  
でも、また死にまで、汝と共に往くの用意あり。四四 乃ち彼曰へり、われ汝に云はん、ペテ

且、必ず今日三たび汝の我を知らずと呑む以前に、猶ほ鳴くまじ。五 また彼等に曰へり、  
 われ財布、また襪袋、また鞋なして汝等を使はしとき、何か欠けたる事なかりしか。彼等  
 いへり、何も無かりき。六 是の故に彼等に曰へり、されど今は財布ある者は取れ、襪袋をも  
 等しくせよ。またこれを持たぬ者は衣を賣りて劍を買へ。モ七 そはわれ汝等に云はん、さ  
 らば汝は無法者のうちに數へられたり、と録せられたる此の事は、必ず我に於て遂げられざるべ  
 からざればなり。そは我に就きての事は終あればなり。八 かくて彼等いへり、主よ、見たま  
 へ、劍は此處に二口あり。乃ち彼は彼等に曰へり、充分なり。  
 九 かくて彼は出て来りしとき、例に循ひてエライランの山に往き給へり。されば弟子等も  
 従へり。四〇 かくてかの場所に到り給ひしとき、彼等に曰へり、試に入り來らざるやう斷れ。  
 四一 また彼は石の投げらるる程、彼等より離れ給へり。かくて跪つきて祈り、四二 云ひ給ひけ  
 るは、父よ、もし思召きは、此の杯を我より取り去り給へ。されど我が意にあらざ、されど  
 汝の「意思」をならしめ給へ。四三 かくて一人の天使、天より彼に現はれて力を添ふ。四四  
 また彼は園のうちにおいて、徹々切に祈り給ひぬ。またその汗は血の大なる滴の如くなりて地  
 に落ちたり。四五 かくて睡より起ち、弟子等の許に來り給ひしとき、哀にとりて彼等の眠れる  
 見出し給へり。四六 乃ち彼等に曰へり、何ぞ寝ぬるや。試に入り來らざるやう起きて祈れ。  
 四七 かくて彼の何は話たりとおはししとき、見よ、群衆あり。また十二の一人なる五

八と云はれし者、彼等に先立ちつありき。かくて彼はイエスに接吻せんと近づけり。八  
 然るにイエス彼に曰へり、ユズと、汝は接吻をもて人の子を付すや。九 されば彼を繼れる人  
 人、事の發らんとするを見て、彼にいへり、主よ、劍にて撃つべきや否や。五〇 かくて彼等  
 うちの或る一人、祭司長の奴僕を撃ちて、その右の耳を取りはなせり。五一 然るにイエス答  
 へて曰へり、これにて許せ。乃ち耳に捫りて彼を醫し給へり。五二 かくてイエス已に逆ひて  
 詣れる、祭司長等及び神殿司等并に長老等に對ひて曰へり、汝等は強盜に對ふが如く、劍と棒  
 とをもて出で來れるや。五三 日に隨ひて我は汝等と共に神殿のうちにおりしとき、汝等は我が  
 上に手を伸べざりき。されど此は汝等の時にて、また時の權なり。  
 五四 かくて彼を捕へしとき、彼等は連れ往きて祭司長の家に入れたり。然るにペテロは遠く  
 より従へり。五五 かくて中庭の眞中にて火を焚きて彼等は共に坐しければ、ペテロもそのうち  
 に坐せり。五五 然るに或る婢、彼の光に對ひて坐するを見しとき、彼を認識めていへり、され  
 ば此の者は彼と同一にありき。五七 然るに彼これを否みて云ひけるは、婦よ、我は彼を知らず。  
 五八 また漸くして他の男進へけるは、されば汝も彼等のうちなり。然るにペテロいへり、  
 人よ、我はあらず。五九 また一時ほど過ぎて、或る他の男強く確めて云ひけるは、眞に  
 此の者も彼と共に在りき、そは彼もガリラヤ人なればなり。六〇 然るにペテロいへり、人よ、  
 我は汝の云ふことを知らず。かくて彼の何は話たりつありしとき、怒り鳴けり。六一 乃ち

ふり返り主は、目を擧げて、ベテロを一つら顧給ひければ、ベテロ、號喚く以前に汝、三たびわれを否むべし、と曰ひし圭の言を憶ひ起せり。かくてベテロは外に出で來りて、甚く泣けり。  
 \*三 またイエスを執へし人々、彼を打ちて嘲弄し、\*四 且つ彼を擡ひて、その顔を拵き、且つ問ふて云ひけるは、豫言せよ、汝を擧つ者は誰なるか。\*五 また彼等は多くの不敬なる他の事を彼に向ひて云へり。

\*六 また日になりしとき、民の長老兼及び祭司長等并に學者等も集まれり。かくて彼を議會に連れ往きて云ひけるは、\*七 汝もキリストならば、我等にいへ。乃ち彼等に曰へり、假令われ汝等にいふとも、必ず汝等は信すまじ。\*八 また假令われ汝等に問ふとも、我に答へ、若しくは去らしめまじ。\*九 されど今より後、人の子は神の力の右手に坐してあるならん。\*十 乃ち彼等みないへり、是の故に汝は神の子なるや。かくて彼は彼等に對ひて述べ給ひけるは、汝等は云ふ、そは我なればなり。\*十一 乃ち彼等いへり、何ぞ何は聖人の要あらんや。そは親しく我等は彼の口より聞きなればなり。

第二十三章

また彼等の大衆みな起ち上りて、彼をビラトに向ひて連れ往けり。 \*二 かくて彼をカイザルに納むるを禁じ、己自らキリスト(即ち)王なりと云ふを見出だせり。 \*三 かくてビラト彼に向ふて、云ひけるは、汝はユダヤ人の王なるや。乃ち彼は答へて彼に述べ給ひける

は、汝は云ふ。 \*四 かくてビラト祭司長等と諸辯士とに對ひていへり、われ何をも此の人に答むべきことを見出ださず。  
 \*五 然るに彼等は固く執つて云ひけるは、彼はガリラヤより始めて、此の處に至るまで、通くユダヤを欲へて民を擧り立てたりと。 \*六 然るにビラトはガリラヤと聞きて、此の人はガリラヤ人なるや否やを問へり。 \*七 かくてベテロの權につきて彼のあることを認め、 \*八 ベテロも此等の日にエロソルにありければ、 \*九 その許にこれを送れり。 \*十 乃ちベテロを見て甚だ驚べり。そは彼に就きて多くの事を聞きなれば、久しくこれを見んことを欲し、また彼によりて爲されたる、何かの徴をも見んことを欲みつつありたればなり。 \*十一 されば彼は多くの言をもて問へり。されど彼は何をも答へ給はざりき。 \*十二 また祭司長等と學者等とは立ちて、烈しく彼を訴へたり。 \*十三 かくてベテロ、兵卒等と共に彼を輕しめ、且つ嘲り、華やかなる衣服を纏はしめて、ビラトの許に送り返せり。 \*十四 さればその日にビラトも \*十五 互に及となれり。そは前には彼等は互に敵にてありたればなり。 \*十六 またビラトは祭司長等及び長老等並に民を呼び集め、 \*十七 彼等に對ひていへり、汝等は此の人を民を擧はす者として連れ來れり。されど見よ、われ汝等の面前にて調べしとき、何を汝等が訴ふる(如き)答むべきことを此の人に見出ださず。 \*十八 尚ほベテロも見出だせしことなし、 \*十九 是はわれ汝等を彼の許に送りたればなり、 \*二十 されば見よ、死罪に値する何を彼によりて爲されざりし。 \*二十一 是の故に我は彼を釋しめて

座さん。二 即ち前章に於りて彼は一人を彼等に釋すの要ありしなり。八 然るに彼等は  
 一齊に叫び出でて云ひけるは、此の者を除け、我等にバラバを釋せ。九 彼は市にて一擧を起  
 し、且つ人を殺しゆへに據着に投せられし者なり。一〇 是の故に復たピラトはイエスを釋さ  
 んと欲して、彼等をして呼べり。二 然るに彼等は叫び出でて云ひけるは、十字架につけよ、彼  
 を十字架につけよ。三 されば彼は三たび彼等に對ひていへり、されば此の者は何の惡しきこ  
 とを爲しや、何も距離の理由を我は彼に見出ださず。是の故に懲りしめて彼を釋さん。三 然  
 るに彼等は彼を十字架につけられんことを求めつつ、大聲にて迫れり。かくて彼等祭司長等の  
 聲勝てり。四 さればピラトは彼等の求の應へらることを言ひ渡せり。五 かくて彼は彼等  
 の求めし、一擧と人殺とのために、據着に投せられし者を釋せり。されどイエスをば彼等の意  
 にまかせたり。

六 また彼を連れ去るとき、彼等は鼻より來れるクレネ人シモンなる者を捉へ、その上に十  
 字架を置き、担ふてイエスの後ろに、從はしめたり。七 また民及び悲しき哭ける婦等の夥  
 しき大衆、彼に從ひつゝありき。八 然るにイエスふり返りて、彼等に對ひて曰へり、エルサ  
 レムの娘等よ、我がために泣く勿れ、されど己自らのため、また汝等の見等のために泣け。九  
 十 是を見よ、福なるは不生女と、孕かしてとなき胎と、啼まじしことなき乳母となり、と彼等の  
 云ふならん日は來りつゝあればなり。一一 其のとき彼等は山に向ひては、我等の上に倒れよ。

また山に向ひては、我等を蔽へ、と云ひ始むるならん。三 彼等もし青木に於て此等の事を爲  
 きば、枯れたるものに於ては如何なる事の發るべきか。四 また他の惡漢ども二人も殺さ  
 るべく、彼と共に連れ往かれたり。

三 かくて彼等はクラネオンと呼ぶ場所に到りしとき、そこにて彼と惡漢どもを、一を彼の  
 右手にて、また一を左手にて十字架につけたり。四 然るにイエス云ひ給へり、父よ、彼等に  
 赦し給へ。是は彼等は爲すところの事を知らざればなり。かくて彼等は彼の衣を分ちて織を取  
 り。五 また民は積つて立り。また長等も彼等と間に嘲笑ひて、云ひけるは、彼は他を救  
 へり、此の者もしキリスト、神の選ひ給ひし者ならば、いざ己自らを救へ。六 また兵卒等も  
 彼を嘲り、進み來りて葡萄酢を差し出だし、七 且つ云ひけるは、汝もしユダヤ人の王ならば、  
 汝自身を救へ。八 又また彼の上に、此の者はユダヤ人の王なり、と手リシヤ、またロテ、また  
 ヘブルの文字にて書かれたる銘もありき。

九 又また懸けられたる惡漢のうちの一一人、彼を罵して云ひけるは、汝もしキリストならば、  
 汝自身と我等とを救へ。一〇 然るに他の者答へて、彼を叱し云ひけるは、汝は同じ裁の下にお  
 りながら、神を畏れざるか。一一 また我等は如何にも正當の事なり、是は爲し事の値を受く  
 ればなり。されど此一人は善からぬ事を何をも爲さざりき。一二 かくてイエスに云ひける  
 は、主よ、汝の國に到り給ひしとき、我を憶ひ出で給へ。一三 乃ちイエス彼に曰へり、誠にな

れ汝に云はん、今日われと共に汝は六ツライエにあるべし。

四 第六の頃女見き、第九時まで地の土運く暗くなり、また第六の頃は震中にて裂けた。五 父よ、我が壺を汝の手に委ねまつ。かくて彼は此等の事を目ひて後、息絶え給へり。六 されば百人長は發りし聲を見て、神を頌め、云ひけるは、實に此の人は驚しき者なり。七 八 また此の光景のために集まり來りし諸群衆みな、發りし聲を稱て、その壺を打ちつ歸りたり。九 九 また彼を知る者及びガリラヤより従ひたる婦等も、此等の事を纏つて懸に立てり。

五〇 かくて見よ、議員にて華かつ義なるヨセフと名くる人、五二 此の者は彼等の評議と所樂とに同意せざりき。五三 エズラの市アリアマヤより來れり。彼は神の國を待ちつありき。五四 此の者ヒラトの許に進み往きて、一エスの壺を求めたり。五五 かくてこれを取り下るし、麻布にて巻き、岩に繋りたる朱だ誰をも置きしことなき處に墮けり。五六 また此の日は朝日にて、且つ安息日は夜明けつありき。

五七 またガリラヤより彼に伴ひ來りし婦等も踵き來りたれば、甚と彼の壺の如何に置かれしかとを看たり。五八 また彼等は歸りしとき、香料と香油とを備へたり。かくて安息日には彼に預ひて靜かに休めり。

五九 かくて週の首の日に朝まだき、彼等は備へたる香料を携へて墓に到れ

り。またある者も彼等に伴へり。

二 然るに彼等は墓より轉ばし去られたる石を見出だせり。三 乃ち入り來りしに、主イエスの壺を見出だざりき。四 されば此の墓に就きて設備を知らざりしときかくてありき、即ち見よ、二人の男あり、纏ける衣服にて彼等の傍に立てり。五 されば彼等は怖ろしくなりて、顔を地に伏せけるに、彼等に對ひていへり、何故に汝等は死人のうちに生ける者を察するや。六 彼は此處におはさず、されど起き給へり、彼の尙ほガリラヤにおはししとき、汝等に如何に語たり給ひしかを憶ひ出でよ、七 云ひ給ひけるは、人の子は必ず罪深き人々の手に付き、また十字架につけられ、また三日めに起きざるべからずと。八 乃ち彼等はその詞を憶ひ出でたり。九 されば墓より歸りて、此等のすべての事を十一と、その他のすべての者に報したり。一〇 また此等の事を使徒等に對ひて云ひたる者は、マテア、マルコ、またヨハネ、またマテアのマリア、並にその餘の彼等に伴ひし婦等なりき。一一 然るに此等の詞は彼等の面前に戯れ言の如く顯はれたり。されば彼等は信とせざりき。一二 されどペテロは起ち上りて墓に走れり。かくて戻りて唯麻布のみ横はれるを視たり。されば發りし事を自らに對ひ異しみつ去れり。

三 三 また見よ、此の日彼等のうちの二人、エリサベトより三里ばかり隔たりたる村、その名はエマオに往きつありき。一四 また彼等はふりかかりし此等のすべての事に就きて、互に語り合ひつありき。一五 かくて彼等は互に歸り、且つ論じ合ひしときかくありき、即ちイエ

又自ら近づきて彼等と共に住まへり。一 然るに彼等の目は閉へられて、彼を辨らざりき。モかくて彼等に對ひて曰へり、汝等は歩かながら交はず此等の言と、辨りがちなる弟子とは何ぞや。二 乃ちその一人、その名はクレオパ、答へて彼に對ひていへり、汝はエルサレムに強りながら、此等の日にそちにて發りし事を獨り知らざるか。二 かくて彼等に曰へり、如何なる事ぞや。乃ち彼等は彼にいへり、サレムなるイエスに就きての事なり。彼は神とすべの民との前に、行と實とに方ある眞實なる人なりき。三 然るに如何なればか、祭司長等と我等の長等とは彼を死罪の斃に付して、十字架につけたり。三 されど我等はイエスヲエルを將に贖はんとする者は彼なりと望みつつありしなり、されど此等の事のありしより三日めなる今日、此等のすべの事を滅せり。三 されど我等のうちの或る婦等は朝まだき墓にありて、我等を驚かせり。三 即ち彼の體を見出ださずして歸り、彼は生きておほす、と云ふ天使の眞象を觀たりと云ふなり。四 また彼等と同一にある者のうちの或る者も、墓に往きて、婦等のいへる如くなるを見出たせり、即ち彼を彼等は見ざりき。五 然るに彼は彼等に對ひて曰へり、ああ、眞實者の証たりしすべの事を信する心の、鈍く且つ遅き者よ。六 キリストは必ず此等の苦を受け、またその榮光に入り來ざるべからざるにあらずや。七 かくて彼はモサレトより、またすべの眞實者等より始めて、己自らに依はる事をすべに聖靈に於て説き示し給へり。八 かくて彼等の往かんとする村に近づけり。然るに彼は尙ほ遙に往かんとする

憐なりき。二 九 されば彼等強ひて云ひけるは、我等と共に逗まれ、それは暮るは近し、日既に傾きたればなり。乃ち彼等と共に逗まるべく入り來り給へり。三 かくて彼等と共に彼の席に蒞り給ひしとき、彼はパンを取りて祝し給ひ、且つ擘きて彼等に與へ給へり。三 乃ち彼等互にいへり、道にて我等に証たり、且つ我等に眞實を聞き給ひしとき、我等の心は我等のうちに燃えしにあらずや。三 されば彼等はその時起ち上りて、エルサレムに歸り、かくて十一と備にそれに伴ふ人々の集まれるを見出たせり、四 云ひけるは、主は眞に起ち給へり、且つシマシに現はれ給へり。五 乃ち彼等も道にての事と、如何に彼のパンを擘き給ふことにて知られ給ひしかとを陳べたり。六

三 又また此等の事を彼等の語たりつありしとき、イエス自らその眞中に立ちて、云ひ給ひけるは、平和汝等にあれ。七 然るに怖れて懼れたれば、彼等は眞象を看たりと思へり。三八 されば彼等に曰へり、何ぞ驚恐するや。また何故に汝等心に勘考を上すや。九 我が手と我が足とを見よ、それは我自らなればなり。我に觸れ、且つ見よ。それは我がもてるを汝等の看る如く、靈は肉と骨とをもたざればなり。四〇 かく曰ひて、彼等にその手と足とを見はし給へり。四一 然るに彼等は尙ほ驚びのあまり、信じせずして異しみつつありしかば、彼等に曰へり、此處に何ぞ疾すべきものあるや。四二 乃ち彼等は少しばかりの疾りたる魚と、鰻房とを擘めたり。四三

されば彼は取りて、彼等の面前にて喚ひ給へり。且かくて彼等に曰へり、われ何は汝等と問  
 におりしとき、<sup>答</sup> 然たりし言は是れなり、即ちモサセの捉と喚言者等と語とのうちに、我に就き  
 て録されたるすべての事は必ず成就せられざるべからず。且そのとき彼は聖書を悟らしめん  
 とて、彼等の心を聞き、且つ彼等に曰へり、かく録されたり、さればかくの如く、必ずキ  
 リストは苦を受け、また三日めに死人のうちより起たさるべからず。且また彼の名に於て悔  
 ひ改と罪の赦とは、エルサレムより始まりすべての國人に宣へらるべし。且入また汝等は此  
 等の事の証人なり。且また見よ、われ我が父の約束を汝等に使はさん。されど汝等上より力  
 を濟せらるるまでは、エルサレムの市に留まれ。  
 五〇かくて彼は彼等を外にベタニヤの向にまで連れ出だし、且つ手を擧げてこれを祝し給へ  
 り。五二また彼の彼等を祝しておはしときかくありき、彼は彼等より離れて天に擧げられ給  
 へり。五三されば彼等はこれを拜し、大なる聲をもてエルサレムに歸りたり。五四かくて神を  
 讚め歌ひ且つ祝しつ、常に神殿にありき。アメン。

ルカ傳聖福音 終り

ヨハネ傳聖福音

第一章

初に言ありき、また言は神と偕にありき、また言は神なりき。三此の者は初  
 に神と偕にありき。三すべての物、彼によりて擧まれり、また擧まりたる物  
 に、一つとして彼を離れて擧まりしはなし。且彼に生ありき、また此の生は人の光なりき。五  
 また光は暗に輝く、されど暗はそれを悟らざりき。  
 \*神より使はされたる人いでたり、その名はヨハネ。七此の者は證のために來れり、即ち光  
 に就きて證し、すべての人の彼によりて信するためなりしなり。八彼は光にあらず、され  
 ど光に就きて證するためなりしなり。九すべての人を照らす光なる者は世に來りつあり  
 き。一〇彼は世にありき、また世は彼によりて擧まれり、されど世は彼を知らざりき。二彼  
 は巴の物に來れり、然るに巴の者はこれを受けざりき。二三されど彼を受けし者、彼の名を信  
 する者には、神の兒となるの權を與へ給へり。二三彼等は血にて「生まるる」にあらず、また  
 肉の意にて「生まるる」にあらず、また人の意にて「生まるる」にもあらず、されど神の  
 「權」にて生まれたるなり。  
 一四また言は肉となり給へり、かくて我等のうちに住り給へり。また我等はその榮光、父の

御子そのまの榮光を覆たり、恵と眞理とにて満つ。

二五ヨハネ、彼に就きて聲し且つ叫べり、云ひけるは、われの後ろに來り給ふ者は、我より勝り給ふ、それは彼は我より前におはし者なるが故なり、と我がいひしは此の者なり。二六また我等はみな、彼の滿ちたるうちより受けて、恵に恵を加はらる。二七それは披はモラゼによりて與へられ、恵と眞理とはイエスキリストによりて現はれたればなり。二八未だ曾て神を親し者あらず、獨子、父の懷におはす者、彼はこれを「聲」かにし給へり。二九またエザヤ人、汝は誰なるやと彼に問ふために、エロソルヤより祭司等としての人々とを使はしたるとき、ヨハネの證は是れなり。三〇即ち彼は告白せり、且つ吞まざりき、即ち我はキリストにあらずと告白せり。三一されば彼に問へり、是の故に汝は何ぞ。エリヤなるか、乃ち汝云ふ、我はあらず。汝はかの豫言者なるか。また答へり、否。三二是の故に彼にいへり、汝は誰なるか。我等を遣はし者に答へ得るやう、汝自身に就きて汝は何といふや。三三彼進へけるは、我は豫言者イザヤのいひし如く、主の遣を直ぐせよ、と荒野に於ける叫びの聲なり。三四また使はされた人々は、パリサイの人々のうちの者なりき。三五乃ち彼に問へり、且ついへり、是の故に汝もしキリストにあらず、またエリヤにもあらず、またかの豫言者にもあらずは、何ぞバネテマヤするや。三六ヨハネ彼等に答へて云ひけるは、我は水にてバネテマヤす、されど汝等の眞中に立ち給ふ者を汝等知らず。三七彼は我の後ろに來り給ふ者なり、彼は我に勝り給ふ、我は

その鞋の紐を釋へべき値なし。三八此等の事はヨハネのバネテマヤしつゝありし處なる、ヨハネの向側なるエタマヤにてありしなり。

二九明くる日にヨハネ、己が許に來り給ふイエスを觀る。乃ち云ふ見よ神の小羊、世の罪を負ひ給ふ者。三〇此の者は、われの後ろに來り給ふ人、彼は我に勝り給ふ、そは我より先におはししが故なり、と彼に就きて我がいひし者なり。三一また我は彼を知らざりき、されど彼のイスマエルに顯はされ給ふため、これがために、我は水にてバネテマヤせんと到りたり。三二またヨハネ體をなして云ひけるは、われ天より降の如く降り、且つ彼の上に居りたまふ靈を覆たり。三三また我は彼を知らざりき。されど水にてバネテマヤすべく我を證はし給ひし者、彼われに曰へり、汝は彼の上に靈降り、且つその上に居り給ふを見るべし、此の者は聖靈にてバネテマヤし給ふ者なり。三四乃ちわれ親たり、されば此の者は神の子におはすことを證せるなり。三五明くる日に、復たヨハネと彼の弟子等のうちの二人と立ちつゝありき。三六かくて歩み給ふイエスをつらつら觀て云ふ、見よ神の小羊。三七さればかの二人の弟子等、彼の語を聞き給ふ、乃ちイエスに従へり。三八然るにイエスふり返り、且つ彼等の従ふを覆て、これに云ひ給ふ、三九何を乘むるや。乃ち彼等は彼にいへり、ラビ、「聽すれば師といふことなり、」何處に還まらばや。四〇彼等に云ひ給ふ、來れ且つ見よ、彼等來り、且つその還まら給ふ處を見たり。かくてその日彼の許に還まれり。また時は恰も第十時なりき。四一ヨハネ

と申聞き、且つかれ彼は来る二人のうちの一人はシモンペテロの兄弟なるアンデレなりき。二 此の者先づ己が兄弟なるシモンを見出だし且つこれに云ふ、我等又オノオノ即ち爾すればキリストなり。三 かくて彼を見出だせり。四 かくて彼をオエスの許に連れ往けり。然るにオエス彼をつらつら視て曰へり、汝はシモン、ヨナの子なり。汝はオノオノ即ちペテロと譯せらるるなり。五 此れを呼ばるべし。

四 明くる日にオエスはガリラヤに出で往かんと思ひ給へり。かくてヒリヤを見出し、且つ彼に云ひ給ふ、我に従へ。五 またヒリヤはアンデレとペテロとの市なる、ベテサイダのものなりき。六 ヒリヤはオエスを見出だし且つ彼に云ふ、我等モラセが掟に「載せたること」また鎌耨者等の徴ししところの者、オエス、ヨセフの子、オザレヨリの者を見出だせり。

七 然るにオエス彼にいへり、オザレヨリ何の善きものあり得んや。ヒリヤが彼に云ふ、奉れ且つ見よ。八 オエスの許に来るオエスを見給へり。かくて彼に就きて云ひ給ふ、見よ。九 眞にオエス人なり。十 其のうちに讀む。四 オエスに云ふ、何處よりして我を知り給ふや。オエス答へ且つ彼に曰へり、ヒリヤが汝を呼ばざる前に、無花果樹の下に居る汝を見たり。五 オエス答へ且つ彼に云ふ、オエスに云ふ、汝はオエスに云ふ、

の王におほします。五 一 オエス答へ且つ彼に曰へり、無花果樹の下にて汝を見し、とわれ汝にいへる故に、汝は信するや。此等よりも大なる事を、汝は目のあたり見るべし。至三 また彼に

云ひ給ふ、誠に誠にわれ汝等に云はん、此の汝等は今開かれたる天と、人の子の上には降り降りする神の使等とを目のあたり見るべし。

第二章

また三日めに、ガリラヤのカナに婚姻ありき。またオエスの母はそこに在りき。二 またオエスとその弟子等も、その婚姻に請せられき。三 かくて葡萄酒

のつきしとき、オエスの母彼に對ひて云ふ、葡萄酒なし。四 オエス彼に云ひ給ふ、婦よ、我にまた汝に何ぞや、我が時は未だ到らず。五 母、教へ人等に云ふ、何にても彼が汝等に云ふことを傷め。六 またそこにオエス人の酒に備ひて、二三斗入りの石甕六つ備へありき。七 オエス彼等に云ひ給ふ、水をもとて酒を造らせ。乃ち彼等は口まで滿たせり。八 かくて彼等に云ひ給ふ、

今波み取れ、且つ甕司に持ちゆけ。乃ち持ちゆけり。九 されば甕司は葡萄酒になりし水を味へり、且つその何處よりあるを知らざりき。されど水を波みし事へ人等は知れり。十 甕司花を呼び、一 かくて彼に云ふ、すべて人は始めに長き葡萄酒を供へ、酒たるに及びて、そのとき劣れるを「罷むるに」汝は今に至るまで長き葡萄酒を罷れり。二 斯くオエスは彼の物をガリラヤのカナにて爲し給ひ、且つその榮光を顯はし給ひたり。されば弟子等彼を信せり。

三 此の後彼とその母と兄弟等と弟子等とは、カペナウムに下り往けり。されど多日そこに逗留せざりき。四 かくてオエス人の遠遊は近づけり、さればオエスはエロソルマに上り、五 かくて彼は神殿のうちにて、半また半また鐘を賣る者、また逐して兩辨する者を見出

だし給へり。一五 また繩にて腰を作り、手足を轡わづらと繋ぎ、又足に轡わづらと繋ぎ、  
 小貨幣を散らし、またその衣を脱ぎ給へり。一六 また轡わづらを繋ぎ、此等の物ものを  
 取去り、我が父の家を賣り、又其の熱心、我を喰ひ  
 盡せり、と嘆なげきたることを憐あはれ給ひ出だせり。一七 是の故にエサウが答へ、且つ彼にいへり、汝こ  
 れらの事を爲すからばは、我等に何の損いはれはすや。一八 エサウ答へ、且つ彼にいへり、汝こ  
 聖所を賣て、されど我は三日にて之れを想おもへし。一九 是の故にエサウにいへり、此の聖所は  
 四十有六年を賣して建てられたり、餘るに汝は三日にて之れを想おもへし。二〇 是の故に彼は、聖  
 所即ち彼の體に就きて云ひ給ひしが、二一 是の故に死人のうちより彼の起され給ひしとき、  
 聖子等はかく云ひ給ひしとを憐あはれ給ひ出だせり。かくて聖書とエサウの言ひし言とを信じたり。  
 二二 また遠處に賣りて、彼のエソウに於てはしとき、その聖所みこころに於て彼が爲し給ひし事を  
 看て、多くの人々その名を傳たせり。二三 されどエサウ自らは彼等に己を委せ給はざりき、是れ  
 彼はずべて人の人を知り、二四 また人に就きて、應ずる者を賣し給はざりしゆへなり、是れ  
 彼は人のうちにおりしことを知り給ひたればなり。  
 第三章  
 またバリアサイの人々のうちにて、その名はニコテと云ふ人ありき、ユダ  
 ヤ人の長なり。二五 此の者夜間にエサウの所に到れり。かくて彼にいへり、ラ  
 二六、我等は神より來り給ひし御なることを知る、是は神もし我を共におはさずば、汝の爲し

給ふ徵しるし、誰も爲すこと能はざればなり。二七 エサウ答へ、且つ彼にいへり、誠まことに誠まことにわれ汝等に  
 云はん、人もし買かひて生なまされずば、神の國を見ること能はず。二八 エサウ答へ、且つ彼にいへり、人  
 はや老いぬれば如何にして生なまるとを得んや。二九 だが母の胎に入りて生なまるとを  
 得んや。三〇 エサウ答へ、給へ、誠まことに誠まことにわれ汝に云はん、人もし水と鹽とにて生なまされば、  
 神の國に入り來ること能はず。三一 肉にて生なまるとを得んや。三二 鹽にて生なまるとは鹽なり。  
 三三 われ汝に、必ず汝等は買かひて生なまされざるべからず、といひしことを與たまはむ勿れ。三四 是の  
 餘するまゝに吹く、されば汝はその聲を聞く。されど何處どこより來り、また何處どこへ往くを知らず。  
 三十五 すべて靈にて生なまされたる者はかくの如し。三六 エサウ答へ、且つ彼にいへり、如何にしてかかる  
 ことあり得べき。三七 エサウ答へ、且つ彼にいへり、汝はエサウの御なり、然るに此等の  
 事を知らざるか。三八 誠まことに誠まことにわれ汝に云はん、即ち我等知る事を、またり、また親し事を、  
 然るにその證を汝等に受けず。三九 我もし地なる事を汝等にいひしに、尙ほ汝等信せずば、假  
 令天なる事を汝等にいふとも、如何にして信すべけんや。四〇 また天子降りし者、人の子、  
 天に居る者の外に、天に墜おりし者なし。四一 また天子を荒野にて蛇を撃けし如く、その如く人  
 の子は必ず墜おりられざるべからず。四二 是れ予がて汝を信する者の、世ぶることなくして、永  
 の生なまを有つたべなり。四三 是は神はその子、獨子を與へ給はるに、その如く世を愛し給ひたれ  
 ばなり。是れ予がて汝を信する者のに云ふことなりして、永の生なまを有たんと欲なり。四四 是れ

神は世を救ぐために、その子を世に使はし給ひしにあらず、されど彼によりて世の救はるた  
めなりしなり。一人彼を信する者は既に既に救はれたる。それは神の  
獨子の名を信せざりしが故なり。一。また義とは是れなり、即ち光は世に來れり、されど人々  
その光よりも、反つて暗を愛したり、そはそその行の惡しかりしが故なり。二。それはすべて惡を  
行ふ者は光を憐み、且つその行の<sup>罪</sup>を<sup>認</sup>むることなからんために、光の許に來らざればなり。  
三。されど眞理を行ふ者は、その行の<sup>罪</sup>に<sup>認</sup>むることを、光の許に來らざるために、光の許に  
來らざり。

三。此等の事の後、イエスを弟子等とはエササの地に到れり。かくて彼は彼等と共にそこ  
に留まり、且つバテスマしつおはしき。三。またヨハネも、サリムに近きアイムンにてバテ  
スマしつありき、そは彼處は水多かりしが故なり。されば人々<sup>語</sup>り且つバテスマせられ  
たり。四。そはまたヨハネは<sup>聲</sup>に<sup>投</sup>せられしければなり。五。是の故にヨハネの弟子等の  
うちの者と、或るエササ人との間に、淨に就きて論議したり。六。かくて彼等はヨハネの許に  
到り、且つ彼にいへり、ラビ、ヨルダンの向側にて汝と共に在りし者、汝の證せし者、見よ、  
此の者バテスマす。乃ちすべてこの者<sup>の</sup>許に來るなり。七。ヨハネ答へ且ついへり、  
し天よりこれに與へ給はざれば、人は何を要すること能はず。八。我はキリストにあらず、  
されど我は彼の前に使はされし者なり、と我がいひしことを、汝等は<sup>親</sup>しく我がために證す。

二。花嫁をもつ者は花嫁なり。花嫁の友、立ち且つこれを聞く者は、花嫁の聲のゆへに喜をも  
て喜ばむ。是の故にその聲、我のは滿てり。三。必ず彼を<sup>聲</sup>に<sup>せ</sup>ざるべからず、されど我をば  
衰へしめざるべからず。三。上より來り給ふ者はすべてのもの上におはし、地よりある者  
は地のものなり、されば地につきて語たる。天より來り給ふ者はすべての物の上におはしま  
す。三。また彼はその親しとる、また聞しところの此の事を證し給ふ。然るにその證を  
受くる者なし。三。その證を受けし者は、印して神は眞にておはしますことを證す。四。そ  
は神の使はし給ひし者は神の<sup>聲</sup>を<sup>語</sup>たればなり。そは神は<sup>聲</sup>をも<sup>て</sup>證を與へ給はざればなり。  
五。父は子を愛し給ふ、さればすべての物をその手に與へ給ひたり。三。子を信する者は<sup>光</sup>  
を<sup>得</sup>をもつ。また子に服はざる者は生を<sup>得</sup>を<sup>得</sup>ず。されど神の怒の上に居るなり。

第四章

是の故に主は、イエスの弟子等を集め、またバテスマすること、ヨハネよ  
り多し、とバテスマの人の聞きたるを知り給ひしゆへに、三。實は、イ  
エス自らバテスマし給ひしにあらざり、されどその弟子等なりき。三。エササを離れ、かくて  
復たガリラヤに去り給へり。四。然るに彼は、サマリヤを經て過ぎ往き給はざるを得ざりき。五  
是の故に彼は、サマリヤの子ヨセフに與へし地の隣なる、ヌカルと云はるサマリヤの市に  
まで來り給へり。六。またそこにサマリヤの泉ありき。是の故にイエスは旅路の疲にて、その泉の  
に傍坐し給へり。時は第六時頃なりき。七。サマリヤのものなる一人の婦、水を汲まんとて



者の涙を爲すべしこと、またその行を究らすべしことなり。三、汝等云はずや、尙ほ四ヶ月あり、かくて移り入は來ると。見よ、われ汝等に云はん、汝等の目を擧げよ、且つ烟を看よ、既にに移り入らる程に白みたり。三、されば獲る者は價を受け、且つ水の生に至るの實を獲む。是れ獲く者もまた獲る者も、一掃に算ぶためなり。三、それは是をもて播く者はこれなり、また播る者はこれなり、といふ言は眞なればなり。三、われ汝等の算せざりしものを獲らしめんとて、汝等を使はせり。他の人々勞したり、かくて汝等はその勞に入りたるなり。三、かくてかの市より出て來りしサマリヤ人のうちの多々の人々、かの婦の我が爲しすべの事を彼は我に曰へり、と證せし言によりてイエスを信じたり。四、是の故にサマリヤ人等の彼の許に到りしとき、彼等の許に還まり給はんことを彼に請へり。さればイエス彼處に二日逗留り給へり。五、かくて彼の膏のゆへに尙ほ多くの人々信じたり。六、されば彼等その邊に云へり、もはや我等は汝自身の膏のゆへに信するにあらず。それは我等自ら聞き、且つ此の者は眞に世の救主(即ちキリスト)におはすことを知りたればなりと。

三、されど二日の後、彼はそこより出て來り給へり。かくてガリラヤに去り給へり。四、そはイエス自ら、豫言者は巴が吉里にては敬はれず、と證し給ひたればなり。五、是の故に彼のガリラヤに到り給ひしとき、ガリラヤの人々、彼が節會に當りてエロソルマに於て、爲し給ひしすべの事を觀たれば彼を受けたり。そは彼等も節會のためには到りたればなり。

五、是の故にイエス復たガリラヤのカナに到り給へり、水を葡萄酒に爲し給ひし處なり。然るに(王)或る侍臣ありき、その子カペナウムにて病めり。六、此の疾、イエスのエグザヨリガリラヤに到り給ひしことを聞きて、彼の許に往けり。かくて「カペナウム」に下り、己が子を擧し給はんことを請へり。そは死ぬるばかりにてありたればなり。八、是の故にイエス彼に對ひて曰へり、汝等もし欲と奇跡を見ずば、必ず信すまじ。九、侍臣彼に對ひて云ふ、主よ、我が幼児の死なざるうちに下り給へ。至る、イエス彼に云ひ給ふ、往け、汝の子は生く。乃ちこの人はイエスの彼に曰ひし言を信じたり、されば往けり。至、然るに既に彼の下り往きつつありしとき、その奴僕彼に往き遣へり、且つ報じて云ひけるは、汝の童は生くと。至、是の故に彼はその癒えし時を彼處に尋ねたり。乃ち彼にいへり、昨日第七時に癱病、彼を離れたりと。至、是の故に父はイエスの彼に、汝の子は生く、と曰ひしその時に「その非のありし」ことを知れり。されば彼は己と己が全家を信じたり。至、四、イエス復た此の第二の徴をエグザヨリガリラヤに到りしとき爲し給ひたり。

第五章

此等の事の後、エグザ人の節會ありき。さればイエスはエロソルマに上り給へり。ニ、またエロソルマのうち羊の門の邊に五つの廊ある、ヘブライ語にてベテスマと云ふ池あり。三、その内に病める者、盲者、跛者、萎へたる者などの夥しき大衆、その水の動くを待ちつつ臥し居れり。四、そは天候、期に預ひて池に降り、且つその水を搦き亂せば

なり。是の故にその水の攪き亂されたるうち一番に池に入りし者は如何なる疾に罹かれる者だても、<sup>1</sup> 健になりたればなり。至然るに三十八年病のうちにあたりたる或る人そこにあり給ふ、<sup>2</sup> 健にならんことを欲するや。七病める者彼に答へり、主よ、我は水の攪き亂されるときに、我を<sup>3</sup> 投けて池に入るために人をもたず、されば我が来りつあるうちに、他の者我に先立ちて降るなり。八イエズ彼に云ひ給ふ、起きよ、汝の床を取り上げよ、且つ歩め。九乃ち直にその人は健になれり。かくてその床を取り上げたり、且つ歩めり。またその日は安息日なりき。一〇是の故にユダヤ人癒されたる者に云へり、安息日なり。汝床を取り上ぐるは律しからず。一一彼等に答へたり、我を僱に傷し者、彼われにいへり、汝の床を取り上げよ、且つ歩め。一二是の故に彼に問へり、その人、汝の床を取り上げよ、且つ歩め、と汝にいひし者は難なるや。一三されど醫せし者、その難なるを知らざりき。それはその場所に群衆居りたれば、イエズ出で去り給ひたればなり。一四此等の事の後、イエズ神殿にて彼を見出だし給ふ、乃ちこれに曰へり、見よ、汝は健になれり。されば以前にも勝る惡しき事の汝に發らざるや、もはや罪を犯す勿れ。一五その人去れり。かくて已を僱に傷し給ひし者はイエズなりと、ユダヤ人に知らしめたり。

一六されば此のゆへにユダヤ人イエズを追慕し、且つ彼を殺すことを案めたり。そは安息日

に此の事を爲し給ひたればなり。一七されどイエズ彼等に答へ給へり、我が父は現に働き給ふ、故にイエズ答へ且つ彼等に曰へり、誠に誠になれ汝等に云はん、子は父の爲し給ふことを認て「爲す」の外、己自らより何をも爲すことを得ず、そは何にても彼の爲し給ふこと、此等を子も等しく爲せばなり。一八そは父は子を纏にし給ひ、かくて己自ら爲し給ふところのすべて<sup>1</sup> の事を彼に見はし給へばなり。且つ汝等の異しむために、此等よりも大なる行を彼に見はし給ふべし。一九そは父の死にし者を起し、且つ<sup>2</sup> 活かし給ふ如く、その如く子も己が欲する者を活かすべければなり。二〇そは父は誰をも癒き給はず、されどすべて<sup>3</sup> 裁を子に興へ給ひたればなり。二一是れ父を敬ふ如くに、すべて<sup>4</sup> (の人)の子を敬ふためなり。子を敬はざる者は、彼を遣はし給ひし父を敬はず。二二誠に誠になれ汝等に云はん、我が言を聞き且つ我を遣はし給ひし者を信する者は、永の生をもち且つ裁に來らず、されど死より生に移れり。二三誠に誠にわれ汝等に云はん、死にし者神の子の聲を聞く時は來りつあり、即ち今なり。さればこれを聞きし者は生くべし。二四そは父の己自らに生をもち給ふ如く、その如く子にも己自らに生をもち給ひたればなり。二五また人の子たるが故に、これに裁を信するの權を興へ給へり。二六これを興しむ勿れ。そは基に在る者みな彼の聲を聞き、二七かくて善を爲しし者は生の聲に、

また証を行ひし者は衆の聲に、出で往くべき時は來りつゝあればなり。言、我は何事をも我自身より爲すことを得ず、我は聞く如くに衆。さればその衆、我のは衆し。そは我はこの衆、我のを衆めず、されど我を遣はし給ひし者、父の意を衆むるが故なり。三、我もし我自身に就きて証を爲さば、我が証は眞ならず。三、我に就きて証する者は他の者なり。されば我は我に就きて証する、その証の眞なることを知る。

三、汝等一人をヨハネの許に使はせり。かくて彼は眞理に對して證をなせり。三、されど我は人より證を受けず、されど此等の事をわれ汝等の救なるために云ふ。三、五、彼は燈火、點り且つ輝く者なり。されば汝等は一時の間、その光のうちに歡ぶことを好とせり。三、されど我はヨハネの「慰しより尙ほ大なる憐れあり。そは我のこれを完うすべきために、父の我に與へ給ひし行(即ち)我が爲すところのその行は、我に就きて父の我を使はし給ひしことを證すればなり。三、且つ我を遣はし給ひし父は自ら我に就きて證をなし給へり。汝等は未だ會てその聲を聞かず、またその衆をも衆す。三、六、またその言を汝等のうちに居らしめず。そは彼の使はし給ひし者、此の者を汝等は信ぜざればなり。三、九、汝等は聖靈を握る、そはそのうちに水の生ありと思ふが故なり。されどそれらは我に就きて証するものなり。四、然るに汝等は生を有したんために、我が許に來ることを欲せず。一、我は衆光を人より受けず。三、されど我は汝等を知る、即ち汝等は己自らのうちに神の愛を有たざるなり。三、我は我が父の名に於て到りた

り、然るに汝等は我を受けず。他の者もし己の名に於て到りたらんには、彼を汝等は受くるならん。四、互に他より衆光を受け、且つかの衆光即ち唯一の神よりの「衆光」を衆めざる汝等は、如何にして信することを得んや。五、汝等を父に對ひて衆ふべしと我を思ふ勿れ。汝等を衆ふる者あり、汝等の持つところのモラセなり。六、そは汝等もしモラセを信せずば、我を信すべければなり。そは彼は我に就きて證したればなり。七、されど汝等もし彼の衆を信せずば、如何にして我が罰を信すべけんや。

第六章 此等の事の後、イエスはガリラヤの即ちペリアの海の傍側に去り往き給へり。二、然るに大なる群衆彼に従へり、そは彼等は病める人々に爲し給ひし徳を觀しが故なり。三、かくてイエスは山に登り給ひ、且つそこに弟子等と共に坐し給へり。四、また遠處、ユダヤ人の御會は近づけり。五、是の故にイエス目を擧げ、且つ己の許に來る大なる群衆を衆たまひしとき、ピリポに云ひ給ふ、此等の者の曠はんため、パンを何處より我等買ふべきや。六、されど此は彼を試さんとて云ひ給ひしなり。そは彼は衆に爲さんとすることを知り給ひたればなり。七、ピリポ彼に答へり、二百ツナリのパンも、人毎に少しつづ受くるために、尙ほ足らざるべし。八、弟子等のうちの一(人)にて、シモンペテロの兄弟なるアンデレに云ふ、九、此處に一人の衆あり、彼は大衆のパン五つと云きかな二つとを持てり。されど此等は

かく多くの者のために何にならんや。一〇、然るにイエス曰へり、人々をして席に敷かしめよ。

またその處に單多かりき。是の故にその數凡そ五千の男たお席に濟きたり。一乃ちイエス、パンを取り、且つ感謝して弟子等に賜ひ、また弟子等はそれを席に濟ける人々に「願ちたり」また「きかた」をも等しく人々にその欲するままに「願ちたり」。二かくて人々濟たされしとき、イエス弟子等に云ひ給ふ、少しも失はざるやう餘の「餅片」を集めよ。三是の故に彼等は集めたり。かくて人々の喰ひて餘りし五つの大袋のパンの「餅片」、十二の手籃に滿ちたり。四是の故に人々イエスの爲し給ひし徵を見て云へり、此の者は眞にかの豫言者、世に来る者なりと。五是の故にイエス彼等が己を王と爲さんために、將に來り且つ奪ひ去らんとすることを知り給ひて、復た獨にて山にまで退き給へり。

一かくて分になりしとき、弟子等は海に向ひて下り往けり。二かくて船に乗りてカペナウムまで、海の向側に來りつつありき。然るに既に暗くなれり、且つイエスは彼等の許に到り給はざりき。三また海も大風吹きて荒れたり。四是の故に二十五或ひは三十丁が程も漕ぎ出でしとき、彼等は海を歩み、且つ船に近づき來り給ふイエスを尋る。されば彼等は懼れたり。三乃ち彼は彼等に云ひ給ふ、我なり、懼るる勿れ。三是の故に彼等は船に彼を受け入れんことを欲しつゝありき。かくて直に船は往きつゝありし地に在りき。

三明るる目に群衆「即ち」海の彼方に立ちし者、弟子等の乗りしかの一つの外にそこに他の舟なく、且つイエスは弟子等と共に乗り給はず。唯弟子等のみ去れるを見たり。三然るに

主の感謝し給ひしパンを彼等の喰ひし處所の近くに、他の舟々テマリヤより到れり。二是の故に群衆はイエスのそこにはおはさず、弟子等も「居らざるを見しとき、彼等もかの舟々に乗り、且つイエスを求めてカペナウムに到れり。三かくて人々海の向側にイエスを見出ししとき、彼にいへり、ラビ、何時こに來り給ひしや。三イエス彼等に答へ且つ曰へり。誠に誠にわれ汝等に云はん、汝等の我を奉むるは徵を見しが故にあらざる、されどかのパンのうちを喰ひ、且つ腹かされたるが故なり。四朽ち果つる食糧のために働く勿れ。されど人の子の汝等と共に與ふる、存りて永の生に至る食糧のために働け。五は父即ち神は此の者を印し給ひたればなり。六是の故に彼に對ひていへり、我等神の行を行ふために何を爲すべきや。七イエス答へ且つ彼等に曰へり、神の行は彼の使はし給ひし者を信ずることと是れなり。八是の故に彼にいへり、されば我等が見且つ汝を信ずるために、汝は何の徵を爲すや。何を行ふや。三我等の先祖等は荒野にてマナを喰へり、彼は天よりのパンを彼等に喰はしめたり、と歎ざるが如し。三イエス彼等に曰へり、誠に誠にわれ汝等に云はん、モサゼは汝等に天よりのパンを與へざりき。されど我が父は天よりのパン、眞なる者を汝等に與へ給ふ。三それは神のパンは天より降り、且つ生を世に與ふる者なればなり。四是の故に彼に對ひていへり、主と、恒に此のパンを我等に與へ給へ。五乃ちイエス彼等に曰へり、我は生のパンなり。我が許に來る者は必ず飢えず、また我を信する者は如何なる時にも、必ず渴くことなし。六されどわれ汝

等にいへり、汝等は我を頼らずと。モナテて父の我に興へ給ひし者は我が許に來らん。かくて我が許に來る者は我は必ず逐ひ出ださす。モスそは我はこの意、我の爲に故にためにあらず、されど我を遣はし給ひし者の意を爲すべしために、天より降りたるが故なり。モ即ちすて我に興へ給ひし者は、我そのうちの一人をも失はず、終の日にこれを遣はしむべきこと、是れ我を遣はし給ひし父の意なり。モまたすて子を養、且つこれを養する者は永の生を有つて、且つ終の日に我これらを遣はしむべきこと、是れ我を遣はし給ひし者の意なり。

一 是の故にエズヤ人彼に就きて駈けり。そは我はパン、天より降りし者なり、と曰ひしが故なり。二 かくて云ひけるは、此の者はヨセフの子なるイエスにて、我等は彼の父と母とを知るにあらずや。是の故に此の者は如何にして、我は天より降り、と云ふや。三 是の故にイエス答へ且つ彼等に曰へり、汝等互に駈く勿れ。四 もし父われを遣はし給ひし者の、これを遣はし給ふにあらずれば、雖も我に來ること能はず、されど我に來る者は我われ終の日にこれを遣はしむべし。五 聖言者等一の書にかくて彼等はすて神の教へられたる者たるべし、と駈されたり。是の故にすて父より聞き、且つ學びし者は我が許に來らん。六 神の許にある者の外に、雖も父を頼りしことなし、此の者は父を頼たり。七 誠に誠にわれ汝等に云はん、我を信する者は永の生をもつ。八 我は生のパンなり。九 汝等の先祖等は荒野にてマナ

を喰へり、されど死ねり。モ此の者はパン、天より降りれる者なり、是れ人のこれを喰ひ、且つ死なざるためなり。五 我はパン、生ける者、天より降りし者なり。人もし此のパンを喰はば、彼はいつまでも生くべし。また我が興ふパンは我が肉なり、我はそれを世の生のために興ふべし。六 是の故にエズヤ人互に諷ひ、云ひけるは、此の者は如何にして、己が肉を我等に喰はしむることを得んや。七 是の故にイエス彼等に曰へり、誠に誠にわれ汝等に云はん、汝等もし人の子の肉を喰ひ、またその血を飲まざれば、汝等は己自らに生なし。八 我が肉を喰ひ、また我が血を飲む者は永の生を有つ、且つ終の日にわれこれを遣はしむべし。九 是そは我が肉は眞に食液なり、また我が血は眞に飲物なればなり。十 我が肉を喰ひ、また我が血を飲む者は我に居り、我も彼に居る。十一 生ける父の我を遣はし給ひ、且つ我は父のゆへに生くる如く、我を喰ふ者、彼も我のゆへに生くべし。十二 此の者はパン、天より降りし者なり。十三 汝等の先祖等が喰ひしかど死にし、マナの如きものにあらず、此のパンを喰ふ者はいつまでも生くべし。十四 此等の事はイエスのカペナウムにて教へ給ひしとき、會堂にて曰ひしなり。十五 弟子等のうち多くの者聞きていへり、此の言は甚だし、誰かこれを聞くことを得んや。十六 然るにイエス弟子等の、このことに就きて駈くを己自らのうちに知りて、彼等に曰へり、此の事は汝等を誤かしむるや。十七 是の故に汝等もし人の子の元降りし處に昇るを看は如何に。十八 活かすところのものは靈なり、肉は益なし。我の汝等に語たれる詞は靈なり、また生なり。

「誰れが汝等のうちに信ぜざる人々あり。そはイエスは初より信ぜざる人々は誰、また己を付す者は誰なるかを知り給ひたればなり。六五かくて云ひ給へり、此のゆへにわれ汝等に謂へり、我が父より彼に與へられし者にあざれば、誰も我が許に來ること能はずと。六それより弟子等のうち多くの者は歸り去れり、かくてもはや彼と共に歩まざりき。六七是の故にイエス十二に曰へり、汝等も往かんことを欲するにあらずや。六八是の故にシモンペテロ答へたり、主よ、我等は誰の許に往かんや。水の盆の調を汝はもち給ふ。六九また我等は信じ且つ知れり、汝はキリスト、生ける神の子におはすことを。モ一イエス彼等に答へ給へり、われ汝等十二を選びしに、そのうちの一人は惡魔なるにあらずや。七一即ちシモンの子、イエスカリオテのユダを差して云ひ給へり。そは此の者は十二のうちの一人にしてありなばなり。將に彼を付きんとしてありたればなり。

第七章

また此等の事の後、イエスはガリラヤのうちに歩みおはしき。そはエグザのうちに歩むことを欲し給はざりしが故なり。そはエグザ人を殺さんと案めつありたればなり。二かくてエグザ人の節會假處は近づけり。三是の故に彼の兄弟等彼に對ひていへり、此處より移れ、且つエグザに往け。是れ汝の弟子等も汝が爲すところの、その行を看んがためなり。四そは誰も物に事を爲し、且つ己の「世に」明かにあらんことを案わらる者なればなり。汝もし此等の事を爲さば、汝自身を世に顯はせよ。五そはその兄弟等も彼

を信ぜざりしが故なり。六是の故にイエス彼等に云ひ給ふ、その期、我のは未だここにあらず。きれどその期、汝等のものは既に備はれり。七世は汝等を憐むこと能はず、されど我をば憐む。そはその行は惡ししと、彼に就きて譴すればなり。八汝等此の節會に上れ、我は未だ此の節會に上らじ。そはその期、我のは未だ滿たざるが故なり。九かくて此等の事を曰ひて、ガリラヤに還まり給へり。

一〇然るに兄弟等の上りしとき、そのとき彼も翻たらず、されど隠るが如くにして節會に上り給へり。一一是の故にエグザ人、節會に當りて彼を案めつありき、されば云へり、彼は何處に在るや。一二かくて諸群衆の間に、彼に就きて多くの噂ありき。或る者は云へり、彼は善き人なりと。されど他の者は云へり、否、彼は群衆を惑はす者なりと。一三されどユダヤ人のゆへに誰も彼に就きて明かに語らざりき。

一二然るに既に節會の半なりき、イエスは神殿に上り、且つ教へておはしき。一五乃ちエグザ人異しみて云ひけるは、此の者は驅はざるに如何にして文字を知るや。一六イエス彼等に答へ且つ曰へり、我の教は我がものにあらず、されど我を遣はし給ひし者の「教」なり。一七誰かもし彼の意を爲さんと欲せば、此の教に就きて神よりあるか、或ひは我は我自身より語たるかを彼は知るべし。一八己自らより語たる者己の榮光を榮む。されど己を遣はし給ひし者の榮光を榮むる者、此の者は眞なり、さればそのうちに不滅なし。一九モソは汝等に擬を與

へたり、されど汝等のうちには一人もこれを行ふ者なきにあらずや。何故に汝等は我を殺すことを索むるや。○群衆答へ且ついへり、汝は惡鬼に憑かれたり、誰か汝を殺すことを索めんや。○イエス答へ且つ彼等に曰へり、われ一つの行を爲せり、然るに汝等はいかな異しむ。○此のゆへにモラゼは汝等に刺戟を興へたり、是れモラゼよりのゆへにまらず、されど先祖よりなり、されば汝等は安息日に人を刺戟す。○三人もしモラゼの掟の破られざるために、安息日に刺戟を受くるとも、汝等は我の安息日に人を全く僣に爲しのゆへに、我に對ひて怒るか。○四面に俯ひて衆く勿れ、されど義しき裁にて裁け。○是の故にエロソルム人のうちの或る者云へり、此の者は人々の殺さんと索むる者にあらずや。○されば見よ、彼は明かに語たるに、彼等は何をもこれに云はず、或ひば畏たちは此の者の眞にキリストにおはすことを眞に認めしにあらざるか。○されど我等は此の者の何處よりあるかを知る、然るにキリストの來り給はんとときは、誰もその何處よりあるかを知る者なけん。○是の故にイエス神殿にて教へつづ叫び、且つ云ひ給ひけるは汝等は我をも知り、また我が何處よりあるかをも知る。然るに我は我自身より到らず、されど我を遣はし給ひし者は眞なる者におはします、汝等は彼を知らず。○元されど我は彼を知る、そは我は彼の許にあり、且つ彼は我をば使はし給ひたるが故なり。○是の故に人々イエスを執へんと索めたり、されど誰も手を彼に掛けざりき、そは彼の時いまだ到らざりしが故なり。○然るに群衆のうちの多くの者彼を信したり、かくて云へり、キ

リストの來り給ふとき、此の者の爲し此等の徴より、尙ほ多くを爲し給ふべけんやと。○パリサイの人々、群衆の彼に就きて此等の事を嘔くを聞けり。さればパリサイの人々と祭司長等と彼を執ふるために、使丁等を使はせり。○是の故にイエス彼等に曰へり、われ尙ほ少時汝等のうちに在り、かくて我は我を遣はし給ひ者の許に往かん。○汝等はわれを索むるなり、汝等のうちに在り、且つ我が在る處に汝等は來ること能はず。○是の故にエザヤん、されど見出ださざるべし、且つ我が在る處に汝等は來ること能はず。○是の故にエザヤ人己自らに對ひていへり、此の者は我等の彼を見出ださざらんため、將に何處に往かんとするや。○彼は將にキリシヤ人のうちに散れる者に往き、且つキリシヤ人を敬へんとするなり。○また汝等は我を索むるならん、されど見出ださざるべしと云ひ、また、我が在る處に汝等は來ること能はず、といひし此の言は何ぞや。

○また御會の終の大なる日にイエス立ち給へり、かくて叫び云ひ給ひけるは、誰かもし海に刺戟を受くるとも、汝等は我の安息日に人を全く僣に爲しのゆへに、我に對ひて怒るか。○四面に俯ひて衆く勿れ、されど義しき裁にて裁け。○是の故にエロソルム人のうちの或る者云へり、此の者は人々の殺さんと索むる者にあらずや。○されば見よ、彼は明かに語たるに、彼等は何をもこれに云はず、或ひば畏たちは此の者の眞にキリストにおはすことを眞に認めしにあらざるか。○されど我等は此の者の何處よりあるかを知る、然るにキリストの來り給はんとときは、誰もその何處よりあるかを知る者なけん。○是の故にイエス神殿にて教へつづ叫び、且つ云ひ給ひけるは汝等は我をも知り、また我が何處よりあるかをも知る。然るに我は我自身より到らず、されど我を遣はし給ひし者は眞なる者におはします、汝等は彼を知らず。○元されど我は彼を知る、そは我は彼の許にあり、且つ彼は我をば使はし給ひたるが故なり。○是の故に人々イエスを執へんと索めたり、されど誰も手を彼に掛けざりき、そは彼の時いまだ到らざりしが故なり。○然るに群衆のうちの多くの者彼を信したり、かくて云へり、キ

リストの來り給ふとき、此の者の爲し此等の徴より、尙ほ多くを爲し給ふべけんやと。○パリサイの人々、群衆の彼に就きて此等の事を嘔くを聞けり。さればパリサイの人々と祭司長等と彼を執ふるために、使丁等を使はせり。○是の故にイエス彼等に曰へり、われ尙ほ少時汝等のうちに在り、かくて我は我を遣はし給ひ者の許に往かん。○汝等はわれを索むるなり、汝等のうちに在り、且つ我が在る處に汝等は來ること能はず。○是の故にエザヤん、されど見出ださざるべし、且つ我が在る處に汝等は來ること能はず。○是の故にエザヤ人己自らに對ひていへり、此の者は我等の彼を見出ださざらんため、將に何處に往かんとするや。○彼は將にキリシヤ人のうちに散れる者に往き、且つキリシヤ人を敬へんとするなり。○また汝等は我を索むるならん、されど見出ださざるべしと云ひ、また、我が在る處に汝等は來ること能はず、といひし此の言は何ぞや。

○また御會の終の大なる日にイエス立ち給へり、かくて叫び云ひ給ひけるは、誰かもし海に刺戟を受くるとも、汝等は我の安息日に人を全く僣に爲しのゆへに、我に對ひて怒るか。○四面に俯ひて衆く勿れ、されど義しき裁にて裁け。○是の故にエロソルム人のうちの或る者云へり、此の者は人々の殺さんと索むる者にあらずや。○されば見よ、彼は明かに語たるに、彼等は何をもこれに云はず、或ひば畏たちは此の者の眞にキリストにおはすことを眞に認めしにあらざるか。○されど我等は此の者の何處よりあるかを知る、然るにキリストの來り給はんとときは、誰もその何處よりあるかを知る者なけん。○是の故にイエス神殿にて教へつづ叫び、且つ云ひ給ひけるは汝等は我をも知り、また我が何處よりあるかをも知る。然るに我は我自身より到らず、されど我を遣はし給ひし者は眞なる者におはします、汝等は彼を知らず。○元されど我は彼を知る、そは我は彼の許にあり、且つ彼は我をば使はし給ひたるが故なり。○是の故に人々イエスを執へんと索めたり、されど誰も手を彼に掛けざりき、そは彼の時いまだ到らざりしが故なり。○然るに群衆のうちの多くの者彼を信したり、かくて云へり、キ

来り給ふ、と聲をはいひしにあらずや。三是の故に群衆のうち、彼のゆへに辯護したり。四自然に彼等のうちの或る者は彼を執へんと欲せり、されど誰も彼に手を掛けざりき。五是の故に使丁等は祭司長等とパリサイの人々の許に歸り来れり。乃ち彼等は此の人々にいへり、何故に彼を連れ来らざりしか。六使丁等答へり、未だ此の人の如く、その如く語たりし人はなし。七是の故にパリサイの人々彼等に答へり、汝等も證はされしにあらずや。八長等のうち或ひはパリサイの人々のうち、誰か彼を信ぜしや。九されどこの群衆、徒を知ざざる者は證はれたる者なり。五〇ニコデモノ夜間にイエスの許に到りし者にて、彼等のうちの一人なりき。十一彼等に對ひて云ふ、十二我等の徒は先づその人に聞き、またその爲すところを知りたる(彼に)あらざれば、人を救はんや。十三彼等答へ且つ彼にいへり、汝もガリラヤにきてあるか。探れ且つ見よ、豫言者はガリラヤより起りしことなきことを。至かくておの己が家に往けり。

第八章

またイエスはエライランの山に往き給へり。ニかくて夜明ころ復た神殿に詣り給へり、されば民みな彼の許に来りたり、乃ち坐して彼は教へておはしき。三自然に聚者等とパリサイの人々とは、發怒のうちに取り抑へられたる婦を彼の許に連れ来り、一人々の(腹中に)抱きて、四彼に云ふ、御よ、此の婦は發淫しつありしの際に取り抑へられたり。五また徒のうちニモラゼは、かくの如き者は石たることを命ぜり。是の故に汝は如

何に云ふや。六されど此は彼を証ふことを得んために、これを試みつつ彼等の云へるなり。然るにイエスは風みつつ指にて地に物書き給へり。七されど彼等が問ふて止まざりければ、彼は身を上げ彼等に對ひて曰へり、汝等のうちの罪なき者先づ石を彼に擲つて。八かくて復た風みて地に物書き給へり。九然るに人々これを開き、且つその良心に責められたれば、長老等より始めて未の者等に至るまで、一人一人出で往きたり。かくてイエス獨り指かれ給ふ、また婦は腹中に立ちてあり。一〇かくてイエス身を上げ給ひ、且つ殿の外に誰も居らざるを看て、彼に曰へり、婦よ、彼等、汝を証へし人々は何處にあるや、誰も汝を罪せざりしか。二乃ち彼にいへり、主よ、誰もなし。かくてイエス彼に曰へり、我も汝を罪せじ。往け、且つもはや罪を犯す勿れ。

二是の故にイエス復た人々に語たり給へり、云ひ給ひけるは、我は世の光なり。我に従ふ者は必ず暗に歩まず、されど世の光を有つべし。三是の故にパリサイの人々彼にいへり、汝は汝自身に就きて證す。汝の證は眞ならず。四イエス答へ且つ彼等に曰へり、假令われは我自身に就きて證をなすとも、我が證は眞なり、そは我は何處より到り、また何處へ往くを知るが故なり。されど汝等は我が何處より来り、また何處へ往くを知らず。五汝等は肉に留ひて執く、我は誰をも救はず。六またもし我も救はば、その救、我の父眞なり。そは我は獨にあらず、我と我を遣はし給ひし者、父となればなり。七またその徒、汝等のにも、二人の證は

麗なり、と録されたり。一八 我は我自身に就きて隠する者なり、且つ我を隠はし給ひし者、父は我に就きて隠をなし給ふ。一九 是の故に人々彼に云へり、汝の父は何處にあるや。イエス答へ給へり、汝等は我をも、また我が父をも知らず。汝等もし我を知りしならば、我が父をも知りしなるべし。二〇 イエス神殿にて教へ給ふとき、此等の詞を簾簾閣を(籠ける處)にて語たり給へり。されど誰も彼を執へざりき、そは彼の時は未だ到なざりしが故なり。

二一 是の故にイエス復た彼等に曰へり、我は往く、されば汝等は我を索めん、且つ汝等は已が罪にて死ぬべし。我が往く處に汝等は到ること能はず。二三 是の故にユダヤ人云へり、彼は自殺せんとするにあしざるか、そは我が往く處に汝等は到ること能はずと云へばなり。二三 乃ち彼等に曰へり、汝等は下よりなり、我は上よりなり。汝等は此の世につきてあり、我は此の世につきてあらず。二四 是の故にわれ汝等は已が罪にて死ぬべしと汝等にいへり。そは汝等もし我の彼なることを信ぜずば、汝等は已が罪にて死ぬべければなり。二五 是の故に彼に云へり、汝は誰なるや。乃ちイエス彼等に曰へり、初より汝等に語たれるところの者なり。二六 我は汝等に就きて語たるべきこと、また裁くべきこと、多しあり。されど我を遣はし給ひし者は、汝にしておはします、されば彼より聞きし事、此等を我は世に語たるなり。二七 彼等は父につきて彼の云ひ給ひしことなるを悟らざりき。二八 是の故にイエス彼等に曰へり、汝等は人の子を擲けしとき、そのとき我なるとし、我は我自身より何事をも爲さず、されど父の我に教へ給

ひしままに、此等の事を語たることを知るべし。二九 且つ我を遣はし給ひし者は我と共におはす。父は我を獨にて差しおき給はず、そは我は恒に彼に喜はることを爲すが故なり。三〇 此等の事を彼の語たり給ひしとき、多くの人々彼を信じたり。

三一 是の故にイエス已を信ぜし者、ユダヤ人に對ひて云ひ給へり、汝等もしこの言、我のに居らば、既に我が弟子なり、三二 且つ汝等眞理を知らん、また眞理は汝等を自由なしむべし。三三 彼に答へり、我等はユダヤ人の種なり、されば未だ曾て誰にも奴僕たりしことなし。汝等は自由人となるべし、と汝の云ふは如何に。三四 イエス答へ給へり、誠にわれ汝等に云はん、すべて罪を爲す者は罪の奴僕なりと。三五 また奴僕はいつまでも家に居らざ、子はいつまでも居る。三六 是の故に子も汝等を自由なしめば、汝等は眞に自由人たるべし。三七 我われ汝等はユダヤ人の種なることを知る、されど汝等は我を殺さんことを索む、そはこの言、汝等は罪の故に汝等の父の許にて觀しことを爲す。三九 答へて彼にいへり、我等の父はユダヤ人なり。イエス云ひ給ふ、汝等もしユダヤ人の男なりしならば、ユダヤ人の行を爲すべかりしものを。四〇 然るに今汝等は我を、神より聞きたる眞理を語たる人を殺さんことを索む、(されど)かくユダヤ人は殺さざりき。四一 汝等は汝等の父の行を爲す。是の故に彼等は彼にいへり、我等は淫行にて生まれたるにあらず、一人の父あり(即ち神なり)、二三 是の

故にイエズス彼等に曰へり、神もし汝等の父におはしならんば汝等は我を愛せしむべし。そは我は神より出て來れり、且つ到りたればなり。そは我は我自身より到れるにあらず、されど彼われを便はし給ひたればなり。何故に汝等はこの聲<sup>こゑ</sup>われのを悟らざるや。そは汝等は此の言<sup>ことば</sup>、われのを聞くこと能はざるが故なり。汝等は惡魔なる父よりあり、されば汝等は己が父の愛を憐れんことを欲す。彼は初より人殺なりき、されば眞理のうち<sup>まこと</sup>に立ちしことなし、そは彼のうちに眞理なければなり。彼の偽を語るときは、己のものより語らるなり、そは彼は偽り者にして、またその父なるが故なり。且つ我は眞理を云ふが故に汝等は我を信せず。凡そ汝等のうち誰か罪に就きて、我に自認せしむるや。されど我もし眞理を云はば何故に汝等は我を信せざるや。主神につきてある者は神の詞を聞く。此のゆへに汝等は聞くが故に、即ち汝等は神につきてある者なり。凡そ汝等が父に曰へり、汝はサマリヤ人にて惡魔に憑かれたり、と我等の云ふは良からずや。凡そイエズス答へ給へり、我は惡魔に憑かれず、されど我は我が父を敬ふ、然るに汝等は我を敬はず。凡そされど我は己の榮光を崇めず、これを崇め且つ敬ふ者おはします。一誠に誠にわれ汝等に云はん、誰かも此の言、われのを護らば、汝は必ずいつまでも死を續ざるべし。三是の故にユダヤ人彼にいへり、我等いま汝の惡鬼に憑かれたることを知る。アラハムは死ねり、また豫言者等も死ねり。然るに汝は云ふ、人もし我が言を聽らば、必ず汝はいつまでも死を味はざるべし。三汝は我等の父なる死

にしアラハムより大なるや。また豫言者等も死ねり、汝は汝自身を誰となすや。凡そイエズス答へ給へり、我もし我自身に榮光を耀せば、我が榮光は空なり。我に榮光を耀し給ふ者は我が父なり、汝等は彼を汝等の神なりと云ふ。三然るに汝等は彼を知らず、されど我は彼を知る。されば我もし彼を知らずといはば、汝等に等しき偽り者たるべし。されど我は彼を知り、且つその言を聽るなり。凡そアラハム、汝等の父は、その日、我のを見ることを敬べり。かくて彼は見たり、且つ樂めり。凡そ是の故にユダヤ人彼に對ひていへり、汝は未だ五十歳にもあらず、然るにアラハムを觀しや。凡そイエズス彼等に曰へり、誠に誠にわれ汝等に云はん、アラハムのおらざりし以前に、我はあり。三是の故に汝等は彼に攀ちつげんとて、石を取り上げたり。されどイエズスは隠れ給ひき、かくて人々の腹中を通りつ神殿より出て來り給ひ、且つかくして過ぎ去り給へり。

また遂から彼は生まれつきの盲人を見給へり。三されば弟子等彼に問ふて第九 章 云ひけるは、ラビ、彼の盲にて生まるるや、誰か罪を犯しや。此の者なるか、或ひはその父親なるや。三イエズス答へ給へり、此の者の罪を犯ししにあらず、またその父親にもあらず、彼に於て神の罰はさるべかりしためなり。四日のうちは我必ず、われを遣はし給ひし者の行を行はざるべからず。夜來らん、そのとき誰も行ふこと能はず。五我の世に在らん限り、我は世の光なり。六此等の事を曰ひつ地に唾し給へり、またその唾にて泥を

つくり給へり、またその泥を盲者の兩眼にぬり給へり。七かくて彼に曰へり、往け、シロアムの池に洗へ、即ち使はされた者となせらる。是の故にかの人去つて洗へり、乃ち割つ膝

り來れり。八是の故に隣の人々、また新には盲者なりし彼を尋たる人々云へり、此の者は坐し且つ物を

ひせる者ならずや。九他の者云へり、此の者なりと。されど他の者は云へり、彼に似たる者

なりと。然るにかの人云へり、我なりと。一〇是の故に彼等云へり、如何にして汝の兩眼は開

きたるや。一一人云へり、イエスと云ふ人、泥をつくり、また我が兩眼にぬり、

かくて我に云へり、シロアムの池に往け、且つ洗へ。乃ち去つて洗ひしに、我は視力を受けた

り。二三是の故に人々彼にいへり、彼は何處にあるや。かの人云ふ、我は知らず。

二三彼等はパリサイの人々の群に、彼、曾ては盲なりし者を連れ來れり。一四またイエスの

の人々も、如何にして視力を受けしや、とかの人に向へり。乃ちかの人いへり、彼は我が兩眼

に泥をぬけり。かくてわれ洗へり、乃ち視るなり。一五是の故にパリサイの人々のうちの或る

者云へり、此の人は神の許にあるにおらず、それは安息日を護らざればなり。他の者は云へり、

如何にして罪人はかくの如き徴を等しことを能くせんや。かくて彼等のうちに諍ありき。一七

彼等復た盲者に云ふ、彼は汝の兩眼を開きしが故に、汝は彼に就きて何と云ふや。かの人いへ

り、彼は豫言者なりと。一八是の故にエグザ人は彼に就きて、かの人ば盲者なりしが視力を受

けしことを、視力を受けし者の双親を呼び來るまで信ぜざりき。一九かくて彼等に問ふて云ひ

けるは、此の者は盲にて生まれしと云ふ汝等の子なるや。されば如何にして現に彼は視るや。

三〇双親彼等に答へ且ついへり、此の者は我等が子ならず、盲にて生まれしことを知る。三一

されど如何にして今視るや我等知らず、またその兩眼を開きしは誰なるや我等知らず。彼は年

長けたれば彼に問へ、彼は己自らに就きて語つたるならん。三二此等の事を双親はエグザ人を催

れしが故にいへり、それは既にエグザ人は、もし彼をキリストなりと告白する者あらば、會堂

より驅けらるべきなりと、相共に定めたればなり。三三此のゆへに双親はいへり、彼は年長け

たればこれに問へと。三四是の故に彼等は二たび盲なりし人を呼び、且つ彼にいへり、榮光を

神に歸しまつれ。我等は此の人の罪人なることを知る。三五是の故にかの人答へ且ついへり、

我は彼の罪人なるや否やを知らず。我は一事を知る、即ち盲なりしが現に我は視る。三六然る

に復たかの人にいへり、彼は汝に何を爲しや。如何にして汝の兩眼を彼は開きしや。三七彼

等に答へたり、われ既に汝等にいへり、然るに汝等は開かざりき、何故に復た開かんと欲する

か。汝等も彼の弟子とならんと欲するにおらざるか。三八是の故にかの人を罵りていへり、汝

は彼の弟子なり、されど我等はモラセの弟子なり。三九我等は神のモラセに話たり給ひしこと

を知る、されど何處よりあるか此の者を知らず。四〇かの人答へ且つ彼等にいへり、是れ異し

むべきこととなり、それは汝等は彼の何處よりあるかを知らず、されど彼は我が羊を聞き来たればなり。三また神は罪人に聞き給はず、されど人もし神を畏れ、且つその意を偽さば、彼はこれに聞き給ふことを我等は知る。三古より生まれつきの盲者の兩眼を開きし人あるを聞かす。三此の者もし神の許にあるにあらざれば、何をも爲すこと能はざりしなり。四彼等答へ且つ彼にいへり、汝は全く頭に生まれし者なり、然るに我等を欺さるか。乃ちこれを送ひ出だせり。五イエスカの人を彼等の逐ひ出だししことを聞き給へり。かくてかの人を見出だし給ひしとき、これに曰へり、汝は神の字を信するや。六かの人答へ且ついへり、主よ、我が信するためにこその人に知はずは難なるや。七乃ちイエスカの人に曰へり、されば汝は彼を聞たり、即ち汝と共に聞たる者は彼なり。八乃ちかの人答へけるは、主よ、我は信す。かくて彼に永住せり。九またイエス曰へり、我は是れのために此の世に來れり、即ち視ざる者をして視せしめ、また視る者をして盲者とならしむるためなりしなり。一〇然るにイエスと共に在りしバリアサイの人々のうち成る者、此等の事を聞き且つ彼にいへり、我等も盲者なるや。一イエス、彼等に曰へり、汝等もし盲者たりしならんには、別あらざりしものを。されど今汝等は六、我等は視ると。是の故に汝等の罪は存するなり。

第十章

り遊る者、彼は盲人なり、また強盜なり。ニされど門を通りて入り來る者

は、その羊の牧者なり。三門守は彼のために聞き、また羊はその聲を聞く。かくて彼は己のものなる羊を名に呼びて呼び、且つこれを牽き出だす。四また彼は己のものなる羊を牽き出だすとき、その先きに往く。またその羊は彼の聲を知るが故にこれに従ふ。五然るに他人には必ず従はず、されど彼より遠く、それは他人の聲を知らざるが故なり。六イエス此の聲を彼等に曰へり、然るに彼等はその聲だり給ひしことの何なるやを知らざりき。七是の故にイエス復た彼等に曰へり、誠に誠にわれ汝等に云はん、我は羊の門なりと。八すて我より前に到りし者は盲人なり、また強盜なり。されど羊は彼等に聞きざりき。九我は門なり、人もし我によりて入り來らば、救はれん。かくて入り來りまた出て來り、且つ牧場を見出だすべし。一〇盲人の來るは益むため、また殺すため、また殺すために外ならず。我が到りしは彼等の羊をもつため、即ち煉なる「生」をもつためなりしなり。一我は牧者、良き者なり。その牧者、良き者は羊のために、その魂を擔つ。二然るに雇人、即ち牧者にあらず、羊は己のものにあらざる者は、狼の來るを看れば、羊を深しおき且つ遠く。乃ち狼は羊を奪ひ去り、且つ散らすなり。三また雇人は遠く、それは彼は雇人にして羊を顧みざるが故なり。四我は牧者、良き者なり。されば我は我がものなるものを知り、また我がものなるものに知る。五父の我を知り給ふ如く、我も父を知る。且つ我が魂を羊のために捨つ。六また我は此の權のものにおよぼさる他の羊をもつ。必ず彼等をも連れ來らざるべからず、また彼等は我が聲を

聞く。かくて一つの罪、一人の牧者となるべし。一七此のゆへに父は我を愛し給ふ、それは我は復たこれを取るために、我が魂を捨つるが故なり。一八我より誰もこれを取り去るにあらざ、されど我は我自身よりこれを持つるなり。我これを捨つるの權あり、またこれを取るの權あり、我は我が父より此の命を受けたり。一九地の故に復た此の言によりて、エダヤ人のうちに遊蕩りたり。二〇かくて彼等のうち多くの者云へり、彼は惡鬼に憑かれ且つ狂へり。汝等何ぞ彼に聞く。二一他の者は云へり、是れ惡鬼に憑かれたる者の詞にあり。惡鬼は百者の聲を聞くことを聽くせんや。

二二またエロソムに齋戒あり、多なりき、三かくてイエスは禱殿のうちに、プロモン等の聲を減弱せしむるや、汝もしキリヤナならば、明かに我等にいへ。三〇イエス彼等に答へ給へり、我は汝等にいへり、然るに汝等は信せず、我が父の名に於て我が等とらるる行、此等は我に減きて置す。三二されど汝等は信せず、そはわが汝等にいひし如く、汝等は我がものなる者のうちにあはざればなり。三三そのま、我がものは我を離れ聞く、また我も彼等を知る、されば彼等は我に從ふ。二四また我は彼等に水の生を與ふ、されば彼等は必ずいつまでも止むるべし、また我が手よりこれを飲む者なかるべし。二五我に〔彼等を〕與へ給ひし我が父は、すてより次におはします、されば誰も我が父の下よりこれを奪ひ去ること能はず。三〇

我と父とは一なり。三一是の故にエダヤ人復た彼を石たんとて、石を取り上げたり。三二イエス彼等に答へ給へり、我は我が父より多くの眞行を汝等に與はせり、そのうち孰れの行のゆへに、汝等は我を石つや。三三エダヤ人彼に答へて云ひけるは、眞行を汝等に與はせり、そのうち孰れの行のゆへに、我は我が父の行を爲さずば我を信する勿れ。三八されど我もし信せば、汝等は我を信すとも、父の我に「おはし、我の彼に〔在る〕ことを認め、且つ信するために、その行を信せよ。一九地の故に彼等復た我へんと求めたり、されどイエスその手より出で來り給へり。二〇かくて彼は復たヨルダンの河側に、ヨハネの最初にバプテスマを施しつゝありし場所に去り、且つそこに逗留り給へり。二一然るに多くの人々彼の許に到れり、かくて云へり、ヨハネは何にも穢を爲しことなし、されど此の者に觀きてヨハネのいひしことは、すて眞なりき。二二乃ち多くの人々彼處にて彼を信じたり。

第十一卷

また病める者ありき、ツガロとして「ツリアとその姉妹ツルカの村なる、」  
 二ノ十の者なり。三またツリアは香油をもて手をぬり、且つ己が髪にてその

足を拭ひし者にて、その兄弟サガロは病みしたり。三是の故に姉妹等「人を」彼の許に使はし  
て云ひけるは、主よ、且たまへ、汝の纏にし給ふ者病むなり。四然るにイエス聞きて曰へり、  
此の病は死のためにあらず、されど神の榮光のために、これによりて神の子は榮光を露せら  
るためなり。五またイエスはアルタとその姉妹とラザロとを愛し給へり。六是の故に彼は彼  
の病めることを聞き給ひしとき、そのとき居り給ひし場所、尙ほ二日還まり給へり。七かく  
てその後、弟等々に云ひ給ふ、いざ我等復たエグヤに往くべし。八弟等彼に云ふ、ラビ、今  
エグヤ人は汝を石たんことを樂めつゝありき、然るに復たそこに往き給ふや。九イエス答へ給  
へり、一日の時は十二あるにあらずや。人もし日のうちに歩まば、晷かじ、そは彼は此の世の光  
を視るが故なり。一〇然るにもし夜歩まば、跌かん、そは彼のうちに光あらざるが故なり。一  
此等の事を曰へり、かくて此の後彼等に云ひ給ふ我等の友ラザロは眠れり。されどわれ彼を覺  
ますために往く。二是の故に弟等いへり、主よ、彼もし眠れるならば自から復せん。三  
イエスは彼の死に就きて謂ひ給ひしたり、然るに弟等々は惡の眼に就きて云ひ給ふことと思へ  
り。四是の故にそのとき、イエス明かに彼等に曰へり、ラザロは死にたり。五されど汝等  
の信するために、彼處に我の在らざりしを汝等のゆへにわれ喜ぶ。されどいざ彼の許に往くべ  
し。六是の故にトマス即ちトマスと云はる者、相弟子等にいへり、いざ我等も往くべし、  
是れ彼と共に我等の死ぬるためなり。

七是の故にイエスの來り給ひしとき、彼は既に墓に在ること四日なるを見出だし給へり。  
八またベタニヤはエロルマに近く、その距ること僅に十五丁程なりき。九また多くのエ  
グヤ人、その兄弟の事に就きて彼等を慰むるために、アルタとラザロの許に到れり。一〇是の  
故にアルタはイエスの來り給ふことを聞きしとき、彼に往き逢へり。されどラザロは家に坐し  
て居りき。一一是の故にアルタはイエスに對ひていへり、主よ、もし此處におはしたりなら  
んには、我が兄弟は死なざりしものを。一二されど今とて、汝の神に求め給ふものは何にて  
も、神これに汝に興へ給ふべきことを我は知る。一三イエス彼に云ひ給ふ、汝の兄弟は甦るべ  
し。一四アルタ彼に云ふ、我は終の日の甦るべきことを知る。一五イエス彼に曰へ  
り、我は甦らざりたまへ生（な）り、我を信する者は死ぬるとも生くべし。一六また予てて生き且つ  
我を信する者は、必ずいつまでも死なざるべし。汝はこれを信するや。一七彼に云ふ、然り、  
主よ。われ汝はキリスト、神の子、世に來り給ふ者におはすとを信す。一八また此等の事を  
云ひて彼は去れり。かくて獨にその姉妹ラザロを呼びていひけるは、師はここにおはし、且つ  
汝を呼び給ふ。一九彼は聞きしとき、急ぎ起ち、且つ彼の許に來る。二〇然るにイエスは未だ  
村に到り給はず、されどアルタの往き逢ひし場所にはせり。二一是の故にエグヤ人、彼と共に  
家にあり、且つ彼を觀めつゝありし人々、ラザロの急ぎ起ち、且つ出で來るを見て彼に従へ  
り、云ひけるは、彼は泣くために墓に往くなり。二二是の故にラザロはイエスのおはす處に

期りしとき、彼を見てその足下に伏し、彼に云ひけるは、主よ、汝も此處におほしたりしならんには、我が兄弟は死なざりしものを。三、是の故にイエスの泣くと、彼に伴ひ來りしユダヤ人の泣くを見給ひしとき、靈に於て憤り、且つ怒へ給へり。三、かくて曰へり、何處に置きてや。彼に云ふ、主よ、來り且つ見たまへ。三、イエス涙流し給へり。三、是の故にユダヤ人云へり、見よ、如何ばかり彼を靈にし給ひしぞや。三、然るに彼等のうちの或る者いへり、賣者の兩眼を開きし者なる此の（人）は、此の者をも死なざらしむること能はざりしか。三、是の故にイエス復た己自らのうちに憤り、且つ靈に來り給ふ。然るに墓は洞なりき、且つ石はこれに擡げられたり。三、イエス云ひ給ふ石を取り除けよ。死にし者の姉妹ツルヌ彼に云ふ、主よ、既に興し、そは四日なればなり。四、イエス彼に云ひ給ふ、汝もし信せば、神の榮光を目のあたり見るべし、とわれ汝にいひしにあらざや。五、是の故に彼等は死人の置かれしところの石を取り除けたり。乃ちイエス目を擡げ且つ曰へり、父よ、我に聞き給ひしことを汝に感謝しまつる。六、また我は汝の靈に我に聞き給ふことを知り、されど我はこの群衆我を信し置かざりし人々のゆへにかくいへり。是れ汝の我を使はし給ひしことを彼等の信するためなりしなり。七、また此等の事を曰ひしとき、大聲に叫びて曰へり、ササロよ、出て來れ。八、乃ち死にし者、屍布にて足と手とを縛ちられ、且つその面は手巾に包まれて出で來れり。イエス彼等に云ひ給ふ、彼を擡げ、且つ往かしめよ。

五、是の故にユダヤ人のうちの多くの者、パリヤの許に來り、且つイエスの爲し給ひし事を看し人々、彼を信せり。六、然るにそのうちの或る者、パリサイの人々の許に去れり、且つイエスの爲し給ひし事を彼等にいへり。七、是の故に祭司長等とパリサイの人々とは議論を爲せたり、かくて云へり、我等は何を爲すべきや、そは此の人は多くの靈を爲すが故なり。八、我等もし此のままに彼を信すべし。さればローマ人到り、かくてこの場所をもまた此の國人をも我等より取り去るべし。九、然るにそのうちの一人にて、その年の祭司長なりしカヤパ、彼等にいへり、汝等は何を知らず。一〇、また一人この民のために死ぬべく、かくて國人全く亡びざるは、我等のため益なることをも勘へざるなり。一一、然るに是れ彼は己自らよりいひしにあらざり、されどその年の祭司長なりしかば、イエスの許に此の國人のため、一二、また獨り此の國人のためのみならず、尙ほ天下に散らされたる神の兒等を爲めて、一とたすために死なんとし給ひつゝありしことを豫言せるなり。一二、是の故にその日より彼等は彼を殺さんとて、集まりて協議せり。一三、是の故にイエスはその後、明かにユダヤ人のうちを歩み給はず、そより去つて荒野に近き地方なる、エフラヤと云ふ市に往き給ひ、かゝて弟子等と共にそこに留まり給へり。一四、かくてユダヤ人の遠遊は近づけり、されば多くの人々己自らを擡むるために、遠遊の所に地方よりエロソルマに上れり。一五、是の故に彼等イエスを擡めつゝありき。また彼等は神殿のうちに立ちて互に云ひつゝありき、彼は必ずこの聚會

に來るまじと、汝等に思はるや、如何に。至もまた祭司長等とパリサイの人々とは、人もし彼の居る處を知らば、これを串出すべしと命を與へたり、是れ彼を執ふるためなりしなり。

第十三章

是の故に逾越の六日前、イエスはベタニヤに到り給へり。此處は死にシラガ

の故にそこにて人衆のために洗滌を爲したり、さればアルファは事へたり。またラザロは彼と  
同に席に對ける者の一（人）なりき。是の故にマリヤは價高き調符のナルガの香油一斤を取  
りて、イエスの足をぬり、また込が髪にてその足を拭へり。されば香油の價、家に滿でり。口  
しつありし者云ふ、何故にこの香油を三百デナリに賣り、且つ貧しき者に與へざりしや。  
されば彼は貧しき者に就きて心を配りつゝありし故にあらず。されど盜人にて財寶をも奪  
且つそのうちに納りたるものを運びしが故に、かくいひしなり。是の故にイエスは曰へり、蓋  
しおけ。我が葬の日のために、彼はこれを護りたるなり。人そは貧しき者を何に汝等はしむる  
と其にもてと、我をば相に汝等はもたざればなり。

是の故にユダヤ人の大なる群衆、イエスのそこにはばすことを知れり。されば彼等は漸に  
イエスのゆへのみならず、その死人のうちより起し給ひしラザロをも見んために到れり。口  
乃多祭司長等、ラザロをも殺さんために協議せり。二そは多くのユダヤ人彼のゆへに往き、

且つイエスを信じたればなり。

三 明くる日に大なる群衆、節會のために來りし者、イエスのエロソルマに來り給ふことを  
聞きて、三松樹の枝を採れり。かくて彼に往き遊はんために出で來り、且つ叫びけるは、ホ  
ザナと、主の名に於て來り給ふ者、イスラエルの王は配せられます者かな。一 且またイエスは  
小馬を見出だして、これに乗り給へり、録して、五懼るる勿れ、シオンの娘よ、見よ、汝  
の王は驢馬の仔に乗りて來り給ふ、とあるが如し。二 然るに弟子等最初には此等の事を知ら  
ざりき。されどイエスの榮光を顯せられ給ひしとき、そのとき此等の事の、彼に就きて録され  
しこと、人々は此等の事を彼に爲ししことを憶ひ出だせり。一 是の故にその群衆彼の  
ラザロを哀より叫び出だし、且つこれを死人のうちより起し給ひしとき、彼と共に在りし者隨  
せり。二 此のゆへに群衆も往きて彼に逢ひしなり。そは彼のこれを「即ち」この徴を爲し給  
ひしことを聞きたるが故なり。一 是の故にパリサイの人々已自らに對ひていへり、汝等は何  
をも得るところなきを看るや。見よ、世は彼に服せ去れり。

三 〇 また節會に當りて禮拜するために、上れる者のうち數人のキリシヤ人ありき。二 是  
の故に此等の者、ガリチヤのベテサイダの者なるピリガの許しに遊み往き、且つ彼に請ふて  
云ひけるは、主よ、我等イエスを見んことを欲す。三 彼が來り且つアツテレに云ふ。かく  
て獲たアツテレとピリガとは「これを」イエスに云ふ。三 然るにイエス彼等に答へて云ひ給

ひけるは、人の子の榮光を顯せらるべき時は到れり。三言 誠に誠におれ汝等に云はん、かの  
 の一粒、もし地に落ちて死なざらば、彼は獨にて居らん、されどもし死にたらんには、多く  
 の實を結ばん。五言 已が魂を懸にする者はこれを失ふべく、また此の世に於てその魂を憎む者  
 は、これを離りて永の生に至るべし。六人 人もし我に事へんとせば、我に從ふべし。かくて我  
 が在る處にその事へん、われどもそこに在るべし。また人もし我に事ふれば、父はこれを傲ひ  
 給ふべし。

七言 今わが魂は穢が、さればわれ何をいふべきか。父よ、此の時より我を救ひ給へ。されど  
 我はこれのために、此の時に到れるなり。八父よ、汝の名に榮光を顯し給へ。是の故に塵天  
 より來れり、さればわれ榮光を顯したり、かくて復た榮光を顯すべし。九是の故にその群衆  
 一處に、立ち且つ聞きし者云へり、償、償れり。他の者は云へり、天使彼に語たり。一〇人  
 云々、且つ曰へり、此の聲は我がために響りしにあらず、されど汝等のためなり。三言 今こ  
 の世の處あり、此の世の聲は今逐ひ用ふるべし。四言 また我もし地より擧げられんは、すべ  
 てこの人、を我自身の前にも引き濟ぐべし。五言 即ち如何なる死にて將に彼は死なんとし給ひし  
 かを意味して、かく云ひ給ひしなり。六言 群衆彼に答へり、我等捉にてキリストは、いつまで  
 も在り給ふことを聞けり、然るに人の子は必ず擧げられざるべからず、と汝の云ふは如何に、  
 此の人の子とは誰なるや。七是の故にイエス復答に曰へり、尙ほ少時光は汝等のうちにあり。

暗の汝等を蔽はざるため、光をもつちに歩め。また暗に歩む者はその行く方を知らず、三  
 汝等光をもつちに、光の手となるために光を信せよ。イエスこれらの事を語たり給へり。か  
 くて去つて彼等より隠れ給へり。

三言 またかくばかり多くの聲を彼等の前にて彼の爲し給ひしにも拘はらず、彼等は彼を信ぜ  
 ざりき。四是れ豫言者イサヤの言の成就せらるるためなり、即ち彼は云へり、主よ、我  
 等の聞かすことを信ぜし者は誰ぞや。また主の腕は誰に伸張せられしや。五此のゆへに彼  
 等は信ぜずること加はざりし、即ちイサヤ復た曰へり、凡そ彼は彼等の目を盲にし、またその心  
 を頑にし給へり、是れ彼等はその目に目、またその心に心、且つ瞶へされ、かくて我の  
 彼等を醫すことなかるべきためなり。六此等の事はイサヤが彼の榮光を見、且つ彼に  
 就きて語られたるに依りてなり。七長等のうちにも多くの人が彼を信せしにも拘はらず、  
 尙ほパリサイの人々のゆへに、彼等は皆白せざりき。是れ尙堂より擧げられざるためなりした  
 り。八是れ彼等は神の榮光よりも好りて、人の榮光を愛したればなり。

九 然るにイエス叫び且つ曰へり、我を信する者は我を信するにあらず、されど我を遣はし  
 給ひし者を信するなり。一〇また我を信する者は我を遣はし給ひし者を見るべし。一一人 我  
 れ光は世に來れり、すて我を信する者は暗に居らざるためなり。一二また人もし我が罰を  
 聞きて信ぜずとも、我は彼を救かず、是れ我は世を救ぐために來れるにあらず、されど世を救

ふためたりしが故なり。八 我を侮辱せ、また我が頭を受けざる者は巴を載くをもつ。我が所たれる所、彼は終の日に彼を載くべし。九 是は我自身より語たりしにあらず、されど我を遣はし給ひし者、父が語たるべきこと、我が語たるべきことを我に命じ給ひたればなり。一〇 またその命は水の生なることを我は知る。是の故に我が語たることは、父の我に語り給ひし如く、その如く語されるなり。

第十三章

また遠逝の節會の以前に、イエス此の世より父の所に移るべき、己が時の到れるを知り給ひしが、世に在るものを感じ、終に至るまでこれを愛し給ひき。二 かくて晩餐の始まりしとき、惡魔は既にイエスを付すべきことを、シモンの「子」たるイエスキリスチの心に入れたれど、ヨハネは父のすべてを己の手に與へ給ひしこと、神より用ひて來りて神に托くことを知り給ひ、晩餐より起ち、かくて上衣を脱ぎ、また手巾を取りて身に纏ひ、盆で盥に水を注ぎ入れ給ふ。かくて弟子等の足を洗ひ、またその脚ひし手巾にてこれを拭ひ始め給へり。\*是の故に彼はシモンの許に來り給ふ。餘るに彼に告ぐ、主よ、汝は我が足を洗ひ給ふか。七 イエス答へ且つ棧にはへり、汝は我が所すこととを今は知りず、されど後に「これを」知るべし。八 子シモンに告ぐ、必ずいつまでも我が足を洗ひ給はざらんことを。イエス彼に背へ給へり、我もし汝を洗はずば、汝は我のうちに分をもち。九 シモンに告ぐ、主よ、我が足のみならず、されど手をも頭をも。一〇 イエ

ス彼に云ひ給ふ、濡られたる者は足の外洗ふの要なし、されど全く淨し。また汝等は淨し、されどすべての者にはあらず。一 是は彼は己を付しつありし者を知り給ひたればなり、此のゆへにすべての者淨きにはあらずと曰へり。

三 是の故に彼は彼等の足を洗ひ、かくて上衣を取り給ひしとき、復た席に着きて彼等に曰へり、汝等は我が汝等に爲ししことを知るや。三 汝等われを師と呼ぶ、即ち汝等の云ふは良し。そは我「はそれ」なればなり。二 是の故に主また師なる、我もし汝等の足を洗ひしならば、汝等も互に他の足を洗ふべきなり。五 是はわが汝等に靴を與へたればなり、是れ我が爲しし如く、汝等も爲すべきためなり。六 誠に誠におれ汝等に云はん、婢僕はその主より大ならず、また使もこれを遣はし者より大ならず。七 汝等もし此等の罪を知りて、これを悔きは福なる者なり。八 わが汝等のすべてに就きて云ふにあらず、我は我が選ひし者を知らざればと見れ我と共にパンを食する者、我に逆らひてその脚を擧げたり、と「敬ざる」聖書の成就せらるためなりしなり。九 事の續るに先だちて、事の續りたるとき、汝等われなることを信するために、今よりこれを汝等に云ふ。一〇 誠に誠にわが汝等に云はん、我もし誰を遣はさんともし「これを」受くる者は我を受く、また我を受くる者は、我を遣はし給ひし者を受く。

三 一 イエス此等の事を曰ひつづ簾に於て懸へ給へり。かくて證し且つ曰へり、誠に誠にわれ

汝等に云はん、汝等のうちの一人、我を待すべしと。三是の故に誰に就きて云ひ給ふかを  
 駢りつ、弟子等互に相あひたり。三然るに弟子等のうちの一人にて、イエスの愛し給ひ  
 し者、イエスの胸にそひ胸に就きてありき。三是の故にシモン・ペテロ、誰に就きて云ひ給ふ  
 かを尋ねしめんとして、言にて此の者に合圖せり。三乃ちイエスの胸にそひ胸に居けるか  
 考、彼に云ふ、主よ、それは誰なるや。三イエス答へ給へり、われ一握の食ひ物を注して、  
 與へんとする者はそれなり。かくて一握の食ひ物を注して、シモンの〔子〕オスカリオスの  
 手に與へ給ふ。されば一握の食ひ物を受けしそのとき、サタナ彼に入り來れり。是の故にイエ  
 ス彼に云ひ給ふ、三モ汝が惡きんとすることを遂に爲せ。三然るに原に居ける者のうち、一  
 人も何のためにかく口ひしかを知る者なかりき。三モ是は彼る者はエスは財寶を持つが故に、  
 イエス彼に胸の爲のために與する物を買ふと云ひ給へるか、或ひは貧しき者に施さしめ給ふため  
 なりと思ひたればなり。三是の故に一握の食ひ物を受けしとき、彼は直に出で往けり。また  
 彼の用で往きしときは後なりき。

三イエス云ひ給ふ、今や人の子は榮光を顯せらる、且つ神は彼に在りて榮光を顯せられ給  
 ふ。三神もし彼に在りて榮光を顯せられ給はば神も己自らに於て彼に榮光を歸し給ふべし、  
 且つ彼に彼に榮光を歸し給ふべし。三且幼兒たちも少し時われ汝等のうちに在り。汝等われ  
 を樂むるなり、然るにわれエサナ人に、我が往く處に汝等來ること能はず、といひし如く汝

等にも今これを見よ。三われ新しき誠を汝等に與ふ、即ち汝等互に愛すべし。是れ我が  
 汝等を愛せし如く、汝等も互に愛すべきためなり。三汝等もし互の間に愛あらば、是に於て  
 すべての人、汝等の我が弟子なることを知るべし。三シモン・ペテロ彼に云ふ、主よ、何處  
 に往き給ふや。イエス彼に答へ給へり、我が往く處に汝は今從ふこと能はず。されど後に汝は  
 われに從ふべし。三ヨハネ・ペテロ彼に云ふ、主よ、何故に今汝に從ふこと能はざるや。我が魂を汝  
 のために我は捨つべし。三イエス彼に答へ給へり、汝の魂を我がために汝は捨つべしとや。  
 三汝等の心を慍へしむる勿れ。神を信せず、また我を信せず。三我が父の家に  
 は多くの住居あり。されどもし然らずば、われ汝等にいひしなるべし。われ  
 汝等のために場所を備へに往く。三また我もし往き、且つ汝等のために場所を備へば、復た來り  
 て我自身の許に汝等を納ぐべし。是れ我が在る處に汝等も在らんためなり。三また汝等は我が  
 往く處を知り、且つその道を知る。三トマス彼に云ふ、主よ、我等は汝の往く處を知らず、ま  
 りば如何にしてその道を知ることを得んや。三イエス彼に云ひ給ふ、我が道また眞理また生いのちな  
 り。我によるにおらざれば、父の許に來る者なし。七汝等もし我を知りしならば、我が父をも  
 知りしなるべし。されば今より汝等は彼を知る、また彼を觀たり。八ピリガ彼に云ふ、主よ、  
 我等に父を見し給へ、されば是れなり。九イエス彼に云ひ給ふ、ピリガよ、我はかく久しく汝

第十四章

汝等の心を慍へしむる勿れ。神を信せず、また我を信せず。三我が父の家に  
 は多くの住居あり。されどもし然らずば、われ汝等にいひしなるべし。われ  
 汝等のために場所を備へに往く。三また我もし往き、且つ汝等のために場所を備へば、復た來り  
 て我自身の許に汝等を納ぐべし。是れ我が在る處に汝等も在らんためなり。三また汝等は我が  
 往く處を知り、且つその道を知る。三トマス彼に云ふ、主よ、我等は汝の往く處を知らず、ま  
 りば如何にしてその道を知ることを得んや。三イエス彼に云ひ給ふ、我が道また眞理また生いのちな  
 り。我によるにおらざれば、父の許に來る者なし。七汝等もし我を知りしならば、我が父をも  
 知りしなるべし。されば今より汝等は彼を知る、また彼を觀たり。八ピリガ彼に云ふ、主よ、  
 我等に父を見し給へ、されば是れなり。九イエス彼に云ひ給ふ、ピリガよ、我はかく久しく汝

等のうちに在り。然るに汝は我れ知らざるか、我を親し者は父を親しなり、されば汝は如何にして我等に父を見せ、と云ふ。○我は父に「在り」父は我におはすことを傳せざるか。我が汝等に語たる詞は我自身より語たるにおはす、されど父、我がうちに居り給ふ者、彼その行を爲し給ふ。○我を信ぜよ、そは我は父に「在り」また父は我に「知はせは」なり。されどもし然らずば、<sup>1</sup>それによりて我を信ぜよ。○誠に誠におれ汝等に云はん、我を信する者は我が爲す行を傳せよ、且つ此等よりも大なる事を爲すべし。そはわれ我が父の事に往く故なり。○また汝等何事にても我が名に在りて求めなば、われこれを爲すべし、是れ父は子に於て然るを賜せられ給はんためなり。○もし汝等何事をか我が名に在りて求めたば、我「これを」爲すべし。

○またわれ父に謂はん、されば彼は他の感ひる者を汝等に與へ給ふべし、是れいつまでも汝等のうちに彼の賜り給はんためなり。○最も眞理の實なり。彼を批は受くること能はず、そは彼を信ず、また知りもせざる故なり。されど汝等はこれを知る、そは彼は汝等の許に於り給ひ、また汝等うちに於てはせはなり。○われ汝等を差しおきて與へ給ふべし、汝等の許に來りつゝあり。○又尙ほ少時にて世はもはや來者じ、されど汝等は我を信む。そはわれ來くるが故に汝等も來てければなり。○その日に汝等我が父に、また汝等は我に、また汝等は我に、また汝等は汝等に在ることを知るべし。○我が國をも

ち、且つこれを驅る者、彼は我を愛する者なり。また我を愛する者は我が父より愛せられん、我も彼を愛し、且つ我自身をこれに顯はすべし。○イエスカリオリならざるエが彼に云ふ、主と、我等には將に汝自身を顯はさんと給ふに、世に顯はし給はずとは何ぞや。○イエス答へ且つ彼に向ひ、人もし我を愛せば我が言を驅らん、また我が父は彼を愛し給はん、且つ我等彼の許に到らん、かくて我等作席を彼の許に爲すべし。○我を愛せざる者は我が言を護らず。然るに汝等の聞くところの言は我のにおはす、されど我を遣はし給ひし父の「言」なり。○われ汝等の許に居りて、此等の事を顯たれり。○また我が名に於て父の遣はさんとし給ふ處むる者、理なる實は彼はすべての事を汝等に教へ、且つ我が汝等にいひしすべての事を憶ひ起さしめ給ふべし。○我れ本相を汝等に遺す、その本相、我の汝等に與ふ。世の與ふる如きにおはす、われ汝等に與ふ。汝等の心を惑へしむる勿れ。また聽せしむる勿れ。○我は往きつゝあり、また汝等の許に來りつゝあり、と我が汝等にいひしことを汝等聞けり。汝等もし我を愛ししならば、我は父の許に往きつゝあり、と我がいひしことを察ししなるべし、そは我が父は我より大なればなり。○また今事の發るに先だちて汝等に謂へり。是れ事の發りたらんとき、汝等の信するためなり。

○此の後われ汝等と共に多く語たらじ、そは此の世の長の來りつゝあればなり、彼は我に於て何もをも有せず。○されど是れ我は父を愛すること、父の我に命じ給ふが如く、そ